

東京 陵水

賀正
平成29年 元旦
陵水会東京支部役員一同

年頭所感

東京支部長
竹森二郎 (大19)

陵水会東京支部の皆さま、新年あけましておめでとうございます。会員の皆さまがお健やかに新しい年をお迎えになられたことを心よりお慶び申し上げます。

この度、小梶清司前支部長の陵水会理事長就任により、東京支部の支部長を引き継ぐことになりました竹森二郎(大19回卒)です。幹事長一年の短い勉強の後、支部長を仰せつかりました。和田博之幹事長を中心に役員一同協力し、決意も新たに今年や全国一と自負する東京支部の発展のため精励いたす所存です。会員の皆さまのご理解と一層のご協力、ご支援をおねがいします。

現在挙げております東京支部の行動方針は、「支部組織の基盤強化と本部連携を通しての

学への支援」であります。具体的には、

- (a) 「支部組織の基盤強化」としては、*支部総会参加者二五〇名及び会費納入五〇〇名達成*四〇―五〇歳代会員の参加意識向上*年次幹事の増強*同期会、各OB会等との連携



- (b) 「大学への積極支援」は、*新学部創設の進捗状況の会員への報告*実業サイドからの人材教育支援(人材バンク)*就活支援活動、などであり

期中ではありませんが、主要な進捗状況をご報告しますと、去る七月二日の支部総会には二八〇名の会員の皆さまの参加を得て盛会裏に終了しました。同様

目次

1面	年頭所感(竹森支部長)
2面	二十八・二十九年総会
3面	総会とスナップ写真
6面	「たはほ」総会参加と
12面	データエクスポート整備と帆人会報告
13面	

14面	随想と所感
19面	ゴルフ談義
21面	同好会・クラブゼミ
24面	同期会報告
25面	彦根コンフィデンス
26面	会費納入者一覧 広告・奥付

平成28年度 東京支部総会 支部地盤の強化実現 280余名の陵水人集結

竹森二郎(大19)氏
東京支部長に就任・新学部創設支援を

に十月十二日「Next RY Ousui」と銘打った中堅・若手の懇親会も、有志の尽力で七〇名を超える出席者を得て、

通してください。そのほかの項目に關しまして、ほぼ計画通りの進展状況であると申せます。唯、出来得れば今一步の年会費納入が進めば嬉しい限りです。

扱って、今年は嬉しいニュースをお伝えできます。一昨年から吹き荒れた大学改革の嵐、更には「教育・人系学部の見直し」は、正にベリーの黒船襲来のごとくであり、喫緊の課題として母校も対応に迫られたことは、皆さまご承知の通りであります。幸いにも、前佐和隆光学長の時代を見据え、経験に裏打ちされた発想と理論武装、更に位田隆一新学長の人脈と素早いフォローアップの賜物で、去る八月「データサイエンス学部」の創設が文部科学省より最終認可されました。今年の四月母校の彦根キャンパスに一〇〇名の新学部生が入学し、経済学部生と切磋琢磨し輝いてくれるものと確信します。一地方大学の殻を大きく破り、全国から注目される新学部を期待を込めて見守り

たいと考えます。同時に、東京支部も本部と協調し息長く支援策を模索してゆくつもりです。もとより新学部の卒業生は陵水会員となることは決定もなされております。今後も、折に触れ大学教育の在り方が問われ、如何なる人材を輩出し社会と世界と関わっていくか、貢献できるかが問われ続けるでしょう。

「申」年は荒れると云われましたが、外に在っては英国の国民投票によるEU離脱決定(六月)米大統領選挙のTRUMPショック(十一月)韓国朴大統領問題(十一月)。

内に在っては熊本地震(四月)消費増税延期決定(六月)突然の都知事選挙(七月)等、確かに激動の一年でした。さて「酉」年の今年は、どのような一年でしようか?

「IoT」、「AI」他科学の進歩は止まることなく、政治・経済共今年も一寸先は闇かもしれません。しかし、少なくとも母校の彦根キャンパスには、新しい風が吹き始めます。東京支部の会員の皆さまには、新しい息吹だけでなく少しは穏やかに健やかな日々の一年となることを心より祈念いたします。

平成二十八年年度

支部総会を振り返って

当番幹事 後藤 世和(大28)

七月二日の支部総会へのご出席、猛暑の中有難うございました。会場の上野精養軒・桜の間を二八〇名もの会員で埋め尽くし盛会の裡に終えることが出来ました。当番幹事としてここに今回の総会・懇親会運営を振り返り会員の皆様への御礼とさせていただきます。

封書・電話そしてメール、会員数千八百名の東京支部が総会のお知らせをお手元に滞りなく届けることは至難の業です。事務局のご尽力のお蔭で四月末に全件案内発送できました。

例年五月末メ時点で二二〇名程度の出席回答で、そこから一ヶ月かけて目標の二五〇名に向け取組むとのこと。当番幹事として気がでない気分でした。しかし今年は五月末で二〇九名出席(二七七名欠席)のお返事を頂戴できました。六月七日二五〇名、同十四日二七八名、以降二〇名余の増減を経て本番となりました。

封書による案内だけでなく、同期・クラブ・ゼミ・会社等々の関係で声をかけあう(電話・

メール)ことが要因ではと思います。毎日出欠状況が和田副幹事長(現幹事長)から連絡され、事務局・当番幹事での状況認識が円滑だったこともプラスでした。当番幹事間でも全体取りまとめ・発信役を担ってくれた岡野君のお蔭で二十二名も同期が集まりました。

これも、メールという便利な通信手段のおかげでしょう。動員活動にあたり、案内状と回答用葉書を添付ファイルにして同期や勤務先等々に送信しました。プログラム 今回は、位田新学

長のご臨席とデータサイエンス学部新設の件、小椋支部長の本部長理事長就任といった話題満載であったこと、加えて講師の竹田恒泰氏の講演について興味を

持たれた方も多かったのではないかと存じます。若手・女性会員へのアプローチ、若手層の交流を目的として東京オフ会を四十八回弥田君が中心となり、昨年十月に開催。我々も参加し接点が出来たことも大きかったと感謝しております。ここで知り合った女性会員の意見を基に女子会テーブルを設定、竹田先生との記念撮影に納まるまで盛り上がりました。

最後に 彦根物産展、竹田氏図

書の販売にご協力頂き有難うございました。グリー部OB、詩吟同好会・新陵会の皆さん、新卒会員の皆さん、そして二次会運営までお願いした29回の皆さん有難うございました。これを機にさらに来年は発展しますよう祈念します。

『滋賀大学陵水会』というFACEBOOKのグループに無手勝流で記事を投稿しました。他支部の取組にも触発されながら、全国の陵水会の組織がより厚い会員相互の交流の機会となりますよう願いつつ、当番幹事の振り返りとさせていただきます。

平成二十九年年度

支部総会について

当番幹事 緒方 俊輔(大29)

開催概要

日時・平成二十九年七月一日

(土) 午後五時開始(予定)

会場・上野精養軒(台東区上野公園内)

来賓並びに講演・滋賀大学デー

タサイエンス教育センター長

竹村彰通教授(データサイエ

ンス学部長就任予定)

当番幹事・大学二十九回(昭和

五十六年卒業)からのご連絡

○新学部設立にあたって

今年四月に日本初のデータサイエンス学部が彦根に新設され、陵水会に加わるという画期的な出来事を迎えることから、東京陵水においてもより多くの会員の皆様がこの出来事を実感していただくことが最もタイムリーで重要と考え、データサイエンス教育センター長竹村彰通教授(新学部長)に、ご講演を行っていただくことになりました。教授はこれまでの各地での講演や寄稿の中で、日本における新学部の意義や特長のご説明とともに、今後、企業との連携強化の必要性を強調しておられます。実社会で活躍する東京陵水の会員の皆様に一人でも多く、教授からのメッセージを聞いていただくことが大変意義あることと考えております。

○女性会員の参加

経済学部はすでに学生の三分の一を女子学生が占めており、年々その比率は上がっています。既に多くの女性会員が様々な実業の世界で活躍しています。陵水会東京支部総会で彼女らがより多くの陵水会員と交流できる、あるいは女性同士が知り合う機会となることが重要だと思います。前回十三名の女性会員が参加しましたが、益々多くの女性が参加しやすい場となるよう努めていきたいと思っております。

○同期・クラブ・企業単位の声かけを
今回の参加者目標は三百名です。動員の要となる「同期」「クラブ」「企業」「女性」「若手」に対する皆様からのお声かけが大きな力となります。

四月に総会のご案内状(出欠返信用はがき同封)をお届けする予定です。どうぞよろしくお願いたします。

○会員交流の場
今回は前幹事の皆様、支部役員の方々、若手会の皆様のご意見を聞く機会を得ました。その中で特に会員同士の交流の場、機会として期待する声を多く頂戴しました。若手や新卒会員への参加呼びかけを強化してきており、順調に参加者は増えておりますが、会員が更に交流懇親しやすい場となるよう工夫・検討してまいります。



彦根城

東京支部総会

平成二十八年七月二日（土）、午後五時から、今年度の「陵水会東京支部総会・懇親会」が老舗上野精養軒で開催された。本年当番幹事は大学二十八回（昭和五十五年卒）の二十名を超える諸氏。

グリーンクラブOBメンバーの学歌が重々しく静かに流れ、定刻五時に幕が開いた。竹森二郎幹事長（大19）から開会の第一声。まず大会場を立錫の余地なく埋め尽くす二八〇名余の陵水人に盛会の御礼挨拶。当番幹事をはじめ各回、各クラブの世話人の努力を労い、感謝の言葉がある。

来賓に今年度就任の位田隆一滋賀大学学長のご出席を得た。



会場満杯の出席者

総会は三部構成とし、支部総会・作家竹田恒泰氏の記念講演・懇親会の内容で進められた。終了後別室での二次会も例年通り設営された。

最初に、小梶清司支部長（大18）が挨拶。「最近の世界的関心事項として、イギリスのEU離脱のニュースが飛び込んだように、世界の政治経済にどのよう

に影響してくるか先行きは不透明だ。歴史の転換点に我々は立っていると思う。本日も上野に二八〇名余というかつてない会員諸氏に集まっていた。主催者を代表して厚くお礼を申し上げる。二十八回卒の皆さんが幹事として開催全般にわたり取り仕切っていただき、また来年度幹事からもご尽力をいただいた。来賓として新学長の位田隆一先生にご臨席をいただいた。来年のデータサイエンス学部開設に伴う諸準備、学会、産業界、自治体等への働きかけなど近況についてお話をいただき。これからの課題は、いかに優秀な学生を一〇〇名集めるかにかかってくる。会員の子弟にも入学を呼びかけ優秀な学生を確保したら学長もお喜びになると思う。二部の講演を楽しみにしてきた人もあると思う。二次

会も楽しんでいただきたい。私事だが六月上旬開催の本部定期総会において、陵水会新理事長に選任された。就任一年ではあったが東京支部長を離任する。後任は竹森さんにバトンタッチしたい。幹事長として五年、支部長として一年。この間のご支援に感謝する。今後とも陵水会と母校の発展のため微力を尽くしたい」。

次に滋賀大学・新学長の位田隆一先生から、自己紹介に併せて、配布されたプリント「わが国初の『データサイエンス学部（仮称）』の創設」を参考に新学部の設置準備の現況、滋賀大学のこれからの展望などを含めたご挨拶を戴いた。（ご挨拶の要旨は東京支部ホームページを参照ください。）

第一部・総会議事
議長に鈴木重成氏（大7）を選出。第一号議案「平成二十七年活動報告ならびに収支決算報告」が竹森幹事長と脇阪守事務局長（大21）から行われ、岡田憲治監事（大18）の監査報告の後、満場一致の拍手で承認された。

第二号議案「平成二十八年年度活動方針並びに収支予算」につき、竹森幹事長、脇阪事務局長

が説明、全員の承認を受けた。

第三号議案「役員等の改選」は、小梶支部長の本部理事長就任による臨時の役員異動。新しい役員陣容案を小梶支部長が発表。新しく東京支部長として竹森二郎氏（現幹事長・大19）、幹事長に和田博之氏（大19）、副幹事長に能島伸夫氏（大22）、また本部評議員として西坂徹雄氏（大9）、能島伸夫氏。以上につき全員の承認を受けた。

引き続き新支部長の竹森二郎氏と新幹事長の和田博之氏から新任の挨拶があり、自己紹介と会員の支持・協力を求めた。特に竹森新支部長から当支部の事務局を長期にわたり設置いただいている守谷輸送機工業株式会社に（社長守谷貞夫氏・大12）に感謝の言葉があった。



挨拶する竹森支部長

相続税対策・申告、贈与税申告のご相談ならば

税理士法人ファースト会計事務所

法人税・所得税（確定申告）・相続税・贈与税

〒140-0013 東京都品川区南大井6-17-15-401

電話：03-3766-5081 Fax：03-3765-1036 HP：<http://www.tax1st.jp/>



代表社員：公認会計士・税理士 **松 澤 進** 大学38回・平成2年卒
ウインドサーフィン部第6代主将 会計士同好会昭和63年度会長

第二部・記念講演

講師は作家として著名な竹田恒泰氏により「明治維新と孝明天皇」の演題での講演が担当幹事からの紹介の後、行われた。（講演の要旨は東京支部ホームページを参照下さい。）

続いて彦根市産業部観光企画課長・松宮智之氏から同課が推進しているイベントの説明と事業支援の呼びかけ、物産の紹介があった。また彦根城主井伊家の過去に遡る「女城主・直虎」の物語が来年度、大河ドラマとして放映されるとの話題提供があった。

第三部・懇親会

新たに陵水会理事長に就任した小椋清司前支部長の乾杯の発声で、懇親会の幕が開かれた。テーブルの席順は舞台の近くから年次ごとに組み合わされ、また女性組、クラブ組、新卒組、幹事組などと歓談が容易にできるよう配慮された。日頃の御無沙汰を許しあい、旧交を温め、

現況、思い出を語る会話が飛び交い、会場は一度にぎやかな宴会場になった。新会員十名が英気満々に自己紹介。

アトラクションは、神翠流煌弘会会長・小谷野煌弘氏による剣舞「獄中の作・橋本左内」の

雄渾の気概を込めた舞が中川寿一氏（大10）の伴吟により披露された。続いて詩吟同好会（千代田岳精会・新陵教場）のメンバー二十名余による「近江八景・大江敬香」の合吟が演じられ会場を沸かせた。

引き続きグリーククラブOBにより「琵琶湖周航の歌」が望郷の念をもって歌われ、硬軟合わせた雰囲気を楽しんだ。

当番幹事の二十八回卒諸氏の紹介が進み、劳いの拍手が沸き、続いて来年度当番幹事各位が大きな声援の下に紹介され、次回総会の決意表明と支援を求めた。

恒例の高らかなエールに合わせ各運動部OBの有志が登場。「彦根高商校歌」合唱は出席者の気持を一つにして会場内に波打った。

中締めを九〇歳を感じさせない中辻喜蔵氏（本21）の閉会挨拶と手拍子の音頭で会は盛況の裡に午後八時過ぎに閉会となった。

二次会は精養軒別室に設え、卒業年次、年齢の枠を超えて親睦と友誼の交換賑わしく、杯を当てあう音もまじりあい、昂揚した気分にあふれた。別れがたい雰囲気は次回に残し惜別の念を交わしながら午後九時過ぎの散会となった。



竹田氏講演「時代は縦横で理解」



小椋理事長、乾杯の発声



和田新幹事長



盛り上がる女子会



位田学長を囲んで



彦根市からの出店



神翠流小谷野煌弘氏の剣舞



詩吟会・朗々と



和やかな会話が進む



フレッツ・フレッツ滋賀大！



当番幹事の交歓



♪われは湖の子さすらいの♪



中辻先輩の閉会の辞

平成二十七年年度収支報告

○財産目録(単位円・以下同じ)

現金	四三、九六四
普通預金	一、六五六、〇〇九
郵便預金	八三一、九一一
定期預金	一、〇六〇、〇〇〇
合計	三、五九一、八八四

○貸借対照表

【借方】	
現金預金	二、五三一、八八四
基本金引当金	一、〇六〇、〇〇〇
合計	三、五九一、八八四

【収入の部】

年会費収入	一、四〇一、〇〇〇
総会費収入	一、六五六、〇〇〇
寄付金収入	一、三九、〇〇〇
新聞広告収入	二二〇、〇〇〇
本部活動助成金収入	一三一、八〇〇
雑収入	三、四一〇
前年度繰越	一、五一八、五五八
合計	五、〇六九、七六八

(注) 年会費収入・納入者四六七人(前期四五二人・前々期四四二人)。総会費収入・雑収入が二〇九名。三千五百円が十名。二次会は二千円が七十九名。来賓新卒者等は招待。運営費・役員幹事会への費用受け入れ二二〇人分

○収支計算書

【支出の部】

総会費	二、一一七、九四二
運営費	九六、五五八
印刷費	三二八、一七六
通信費	四七〇、一九四
広報活動費	二七、七二九
編集費	一〇〇、〇〇〇
事務用品費	三、八六六
交通費	〇
雑費	五三、四一九
次年度繰越金	一、八七一、八八四
計	五、〇六九、七六八

【支出の部】

総会費	二、五〇〇、〇〇〇
運営費	一〇〇、〇〇〇
印刷費	四〇〇、〇〇〇
通信費	四五〇、〇〇〇
広報活動費	五〇、〇〇〇
編集費	一〇〇、〇〇〇
事務用品費	一〇、〇〇〇
交通費	二〇、〇〇〇
雑費	五〇、〇〇〇
次年度繰越金	一、八六〇、七八四
合計	五、五四〇、七八四

ホームページのメンテナンス経費。雑費・年会費等の振り込み手数料など。

総会に出席して

市橋 翔太(大64)

昨年七月二日(土)、上野精養軒で行われた伝統ある陵水会東京支部総会に出席致しました。当日は新卒会員紹介の場も作って頂き、多くの方とお会いすることで、素晴らしい密度の濃い三時間を過ごすことができました。私は、昨年四月よりパナソニック(株)に入社しましたが、弊社OBのみならず、本当に多様な業種、職種、世代の方々が出席されていたことが印象的です。総会でお会いした、異なる分野で活躍されている方のお話から刺激を受け、自身の成長へのモチベーションとなりました。今後もこの繋がりを大切にしていきたいと考えております。次回に開催される支部総会で、皆様にまたお会いすることができれば幸いです。終わりに、平成二十八年年度支部総会当番幹事の28回の皆様、そして素晴らしい滋賀大学の同志のみなさん、心からの感謝の気持ちと御礼を申し上げます。謝辞に代えさせていただきます。

こんにちは

中村 勝氏 (大25回)

(なかむら まさる)

住友商事株式会社 顧問(前専務執行役員) を去る九月十三日(火) 晴海アイランド・トリトンスクエアの本社に訪問しお話を伺いました。多くのお話をいただきましたが、紙幅上少なからず割愛した部分があることを了承下さい。

—— 本日はお忙しいところ、ありがとうございます。早速ですが中村さんのご出身は？

中村 私は京都市内です。両親は滋賀県で母が近江八幡、父が甲賀市土山の出身です。今も両方とも代々の家があります。

—— 中村さんは京都生まれの京都育ち？

中村 そうですが基本的に滋賀県の血が流れていまして、ずつ



(次ページに続く)

東京支部総会に参加して

総会に出席して

総会に出席して

岡村 加奈 (大64)

奥田 秀星 (大64)

倉田 彰朗 (大64)

今回の陵水会東京支部総会に参加させていただき有難うございました。様々な年代のそれぞれのフィールドでご活躍されている先輩方とお話しさせていただくことが出来ました。普段は関連の業界以外の方とお話しする機会があまりないということもあり、刺激的で素敵な時間を過ごすことができましたと感じています。私は短期大学を卒業し滋賀大学に編入したのですが、入学時にはまさかこんなに広い繋がりを持つと想像していませんでした。暖かい言葉や、励ましのお言葉をかけて下さる先輩方ばかりでも心強く感じました。新入社員研修期間が終わり福岡に転勤となるため東京を離れてしまいましたが、せっかくいただいた機会ですので皆様とのご縁を大切にしていきたいと思えます。少し離れてしまいましたが陵水会の一員としてこれからもどうぞよろしく願います。

由緒ある上野精養軒にて、このたび開催された総会に社会人一年目として参加しました。本年より同じく上京となった学友との良き再会の場になり、またこれまで滋賀大学を繋いできて下さった先輩方との新しい出会いの場でもありました。多くの方の名刺を拝見させて頂くことができましたがお勤め先は十色であり、陵水会のネットワークがいかに多大で多様なものか感じました。私もこれを繋ぐ一人として、新しい色を付け加えていければと思います。総会の中で位田学長のご講話があり「現代社会の課題解決への貢献」「人社系と理系の文理融合」「地域に根ざしたグローバルな視野と活動」の三つをこれからの滋賀大学の柱にすると話されたことに、卒業生の身ながらその期待感に胸を躍らせていました。今回の参加にあたって大勢の先輩方にして頂いたように、私も今後入ってくる後輩たちをあたたく迎え入れられることを、心待ちにしています。

この度は陵水会東京支部の総会にお招きいただき、誠にありがとうございます。私は現在横浜に住んでおりなかなか周りに知り合いがいないう状況でしたが、こちらの会では、若手からベテランの方まで様々な年齢層の諸先輩とお会いすることができました。どの方もとても優しく接してくださり、はじめは緊張していましたが、徐々にほぐれてきました。学生時代に振り返ってお話したいだいて、とても懐かしく思いました。また、様々な業界、職種でご活躍の先輩方とお話しすることで、視野が広がるとともに自分の仕事を頑張ろうという励みになりました。学生時代から仲良くしていた同期とも会うことができ、たわいもない話をして盛り上がりました。また、初めて話す同期とも交流することができ、とても良い機会になりました。またお会いできることを楽しみにしております。今後ともどうぞよろしく願います。

弁護士法人ユニエンス本部

・事業承継・相続・交通事故など気軽にご相談ください。

〒107-0052 東京都新宿区四谷3-13-11 栄ビル3階
TEL 03-6274-8164 FAX 03-6274-8165
HP: <http://www.unience.jp> / E-mail: info@unience.jp

代表社員 弁護士・税理士 青木 聡史 (大45回・平成9年卒)



と滋賀県のことばかり聞かされて育ちました。

——高校は京都ですか

中村 京都市立紫野高校です。大徳寺境内にある昔の女学校です。私の頃は男女共学でしかも当時から制服なし。みんなジーパンとか普通の格好して学校へ行っていましたね。

——自由を謳歌している感じで羨ましい。我々は詰襟の時代だったんですけど。ところで、滋賀大にご入学された経緯は何かありましたか？

中村 一年間、京都でちよっと中間の学校に留学して一浪です。大学は滋賀と神戸で迷いましたが、親が滋賀県出身なものですからやっぱり彦根高商だということでした。

——四年で卒業された？

中村 それはもう、真面目に！京都から通学でしたか

中村 いえ下宿です。松原のヨットハーバーに近い所で彦根でも田舎の方です。この前、行ったらずいぶん変わっていました。大学の裏側も全く変わりましたね、驚きました。

能楽部卒業

——クラブ活動は？

中村 能楽部です。

——能楽部の名前は聞かなかったけれど？

中村 昔は詩吟・吟詠・尺八・能楽と伝統芸能を演るクラブが四つもありました。先輩のしつこい勧誘に負けて能楽部に入つたのですが、謡曲だけでなく仕舞もあり、鼓とか笛とかの鳴り物も習って、三回生の時には皆で能を演じました。能楽部は、今は廃部になっています。

——今は古典芸能が衰退して、残念なことですね

中村 残念ですね。しかし大学の部活は無くなりましたが、卒業生で能楽部に入っていた人が、東京で何人か集まって習っています。何箇月かに一回、神戸から先生に来てもらっています。OB会は三年に一回、来年からは二年に一回で二〇人〜三十人位、彦根の能楽堂に集まります。ただ若い人が廃部になつてからいなので、このままずっと絶滅危惧種です。

——現役を半ば退くと仲間が集まって昔の趣味をそのままやって、ほんと楽しいですね。十歳〜二十歳以上離れた人ともお付き合い、同窓でね

中村 おっしゃる通りですね。そういう付き合いで最近は大先輩・後輩にもより一層付き合

合うようになりましたね。——ゼミは何を？

中村 越後ゼミです。近代経済学でサミュエルソンをやつていましたけど、勉強半分・遊び半分です。大学生活は殆どクラブ活動で終わったようなものです。

——文系のクラブは勉強半分のところもあるけど、体育会系のヨットやボートは全然授業に出ていませんよ。どこ卒業した？ヨット部です！

中村 東京の学生にああいう田舎の生活はなかなか経験できないだろうし、我々は非常に貴重な経験をしたんじゃないかと思

います。嫁さんを決めた人も結構多いですよ。私の先輩でも何人もおられますね。——地元の娘さんとかと結婚されて？

中村 あるいはクラブ活動で知り合った女子大の能楽部員。女子大とばかり交流してました。それで結婚される方も多

かったです。実は私の家内も彦根の県立短大（県短）です。今は滋賀県立大学になっていますが：

住商を覗き見の結果 ——じゃ滋賀県のかたまりです

ね。ところで、住友商事を選ばれたのは、一発必中で？

中村 私の就職活動は終わって

いて、既に他社に受かっていたんです。それで自動車メーカーへ行くことにしていました。たまたま親父が大阪に勤めていた

ものから、大阪へ遊びに行つたんです。その時、偶然に住友商事の前を通つたら新入社員

のリクルートをやっていました。それで商社ってどんなもの

か、と聞いて、思い覗きに行つたんです。全くアポもなしに。そして、滋賀大の学生ですけど、

——うん

中村 そうしたら、どこ就職決まったの？ とうとうで： そうですね。もうガチガチ

と抑え込まれて、すぐ滋賀大の先輩をバーツと呼んで、たまたま能楽部出身の先輩がお

られた。——うん、うん

きました。翌日、大学に報告に行つたら、えらい怒られて：。

お前、何ちゆう事してくれんや、来年から採つてくれへんか

つたらどうなるんや！ と。まあそれで採用は続いているので大丈夫だと思います。そう

いう訳で最初から住友商事へ行こうと思つていたのではないんです。でも、我ながら良い判断

だったと思つています。幸運でした。——今おっしゃった先輩の繋が

りとか、商社は多いですか

中村 滋賀大卒は、私より年下はずーっといなかったんです。上に何人かおられますが少ないです。二〇一三年にロンドン

から大阪へ帰ってきた時、関西支社長になり人事も一応みるので

学生の採用にも関与できる訳です。毎年三〇人〜四〇人は大阪で採用するのですが、その年は五月に帰ってきたのでリクルー

滋賀大だし同期で和歌山大がいるし大阪市立も、今は阪大になっているけど外大もいたし、それこそ広島大学とか結構いろんな大学がいたよ。なんでこんな風になってるの、と聞いたんです。そしたら普通に採用したらそうなるってしまふですよ、と言われましてね。エントリースリーシート書いてもらって試験受けてもらって面接すると、有名私立と三国立で殆ど終わりで滋賀大の学生は来ないんですよ、と言

てしまふんだ

中村 先輩がいけないからOB訪問もない、私しかない。これはむしろ学生の問題じゃなく、こちらの問題じゃないかと思ひましてね。もっと幅広く人を探らないと、そのうち東大・京大等の五大学で終わるようでは人材が偏ってしまう。人材はバラエティー・多様性に富んでいないとあかんと、大分、人事担当に言いました。

滋賀大を開拓

——そうですね

中村 その通りですね、ということになって、言い出しっぺだから中村さん自分で滋賀大へ行

ってリクルートして下さいというところで、講演や会社説明会に行きました。その後も陵水会の依頼でOB講演をやらせて頂いた。住友商事に先輩もおられてちゃんと大学まで来て、商社は面白いよ、ぜひ入ってくれと言ってもらえた、ということでした。二年前ですけれど、他

中村 私は一九七七年入社で入社以来ですか？

中村 私は一九七七年入社で入社以来ですか？

つた原油やガスを長距離輸送するにも鋼管、ですから鋼管の需要が大量に発生した。住友商事も鋼管部隊の人手が足らなくなり、誰でもいいから人を寄せせよ、同期の人間も随分集められた。そのうちの一人です。

——なるほど、そこから鋼管へつながりが？



中村 石油やガスの掘削用鋼管というのは、実は日本には市場

が殆ど無いんです。ご存じのように新潟の長岡でちよつと掘っている位です。それで掘削用鋼管の大市場は、海外です。住友グループで、何年前かに新日鉄住金になりましたが、住友金属が日本で最初に掘削用鋼管を作った会社なんです。しかも長年の努力で世界標準以上の鋼管を作っており、全世界で使われるようになっていきます。海外が市

場ですから、これはもう商社の出番がものすごく大きい。住友金属が作る鋼管の主な輸出先は中東やアメリカです。中東は言うに及ばず、アメリカも巨大な産油国です。アメリカは、昔は随分原油やガスを輸入していたが最近は輸出する位ですから大変な原油・ガスの産出国ですね。それから欧州の北海、ノルウェーの西岸ですけど、あの辺は随分原油やガスが出ます。あと東南アジアのタイ、マレーシア、インドネシア、最近ではミャンマーの沖合もガスが大量に出ます。インドもそうです。

——鋼管部門でのご経歴は？

中村 三年目から営業でした。その時に今、特別顧問で元社長の宮原さんが課長兼部長だった。また課長が今、相談役の岡さんでお二人とも社長をやっておられます。ものすごく厳しいし、忙しいが、業績の良い部隊でした。住友商事の核になるところに動かして頂いたので運がよかったです。勉強になりました。

——商社で厳しいって例えばどんな事ですか

中村 多くの市況商品を扱っていますので、市況リスクも大き

いですが、今は仲介業務が多かったです。今は自らリスクを取ることが多いです。貿易をといて外地で在庫して、場合によっては加工して、それを売る訳です。市況が下がったら在庫評価損を出さなくてはなりません。市況に左右される商品と左右されない商品をやりつつ、リスクを取って、そのリスクを上手に管理していくのが商社の仕事です。

——鋼管はドーンと上がったリドーンと下がったりですか

中村 為替の影響も受けます。石油ショックがあるとドーンと良くなるし、今みたいに原油価格が大きく下がるといきなり厳しくなる。これを調整しながら長期スパンで必ずプラスにしないとイケない。ごめんなさい、で済まない。市況品だと分かっただうえで、下がり基調の時に早く売って、上り基調の時に早く買って、まさに商売の醍醐味でもあります。商社の数も多いです。商社競争は激しい。鋼管市場でのメーカーは旧住友金属（現・新日鉄住金）がダントツです。するとそこにみんな仕入れに行きます。そこが商社同志

の激しい競争になりますね。海外で大きな商談だと一件の契約で何百億円になるので、競争は激しいです。

——中村さんの海外での主なお仕事は？

中村 私は主に大型のパイプラインをやっています。人が入れる位の大きさの鋼管を何十万トンも輸出し、現地で外面塗装して検査後、お客様に納めます。

お客様はパイプラインを敷設して行くのですが、国と国を跨がって行きますから何百キロと引くのはザラです。そういう現場に行くのは楽しかったですけど、入札の時が大変です。一件、百億円とか二百億円の商談になると海外を含む商社、メーカーの激しい競争です。落ちたらおしまい！で、それまで数か月、数年の苦勞が水の泡なんです。それは厳しいし、他の商売もそうですけど、大きいだけに影響も大きいですね。だから絶対勝つように、どうやって勝つか分析をして、作戦を練って、情報収集をして、準備していくんですけど。

——勝率は？

中村 勝率は結構高かったです。逸注した商談も勿論、沢山あります。今はパソコンで、コ

ピペで書類を作りますが、昔は、そうはいかなかった。チーム全員が女性も含めて徹夜して書類を作ったりしました。電卓やコピー機が普及し、パソコンで書類が作れるようになって、業務が激変しました。昔は、書類は輪転機で作成し、タイガー計算機を使っていた。

——eメールもなかった

中村 全部テレックスでパタパタと帯がでてきて、それからしばらくしてファックスになった。そしていきなりeメールでしょう。今は夢のような時代ですね。昔は、苦勞して大口注文が取れたら、一年位遊んでもええよ！で嬉しかったですね。

最大の市場はアラスカ

——ロサンゼルスに駐在されたのは若い頃ですか

中村 入社九年目で行きまして。三十代の頃です。家族四人一緒に行きました。ロサンゼルスでは一番若かったし人数も多く、楽しい駐在生活でした。会社も当時はあまり利益・利益と言わないで売上競争をやっていた時代でしたね。今は儲からない事業は取捨選択していく時代で何もかもとはいきませんが当時は結構許されていて、好きな

ものやれと。法律や会社の規則に反すること以外は何でもやらせてもらえ結構楽しくやりましたね。我々のアメリカでの市場で最大の市場はアラスカです。カルフォルニアでも井戸は掘っています。浅いんですけど、日本の鋼管でないとどうしても困るといってもいい、アメリカの製品でも構わない。ところがアラスカはマイナス四〇度〜五



〇度という超低温なので、品質がものすごく重要なんです。——やっぱり日本の製品はいいんですか？

中村 アメリカ製ではもたない。日本製かドイツ製なんです。それでしょっちゅうアラスカに行っていました。お客様は現地の石油会社かエンジニアリング会社です。他に高級製品をつかうのはヒューストンの沖合メキ

シコ湾です。一度BPが原油の流出事故を起こして有名になりましたけど、あの辺が深いんです。海底のものすごく深い所で掘っているのが日本かドイツの鋼管が必要です。今でこそ、中国やインドメーカーの鋼管製造能力も上がってきていますが、それでも品質やサービスはまだです。

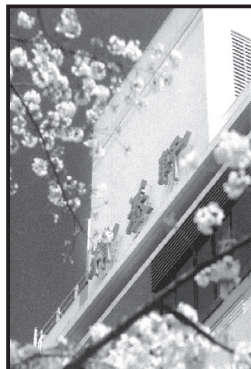
——国民性というか、そういうものがあるんじゃないでしょうか

中村 スベックはありますのでその範囲内で作ればいいんですが、日本もドイツも自分でスベックの範囲をものすごく厳しく管理してやりますね。そういうしている内にアメリカでの仕事が終わり日本に帰ってきて、次にロンドンへ行きました。

イギリスは大人の国

——ロンドンでのご様子をお聞かせ下さい

中村 ロンドンは二回行っていましたが、一回目のロンドン駐在は鋼管の欧州市場と中東をみるというところで、しょっちゅうイランへ行きました。サウジアラビアとかオマーンへもよく行きました。それで日本に帰ってきて、それからアメリカに行くとう出入国審査でものすごく検査さ

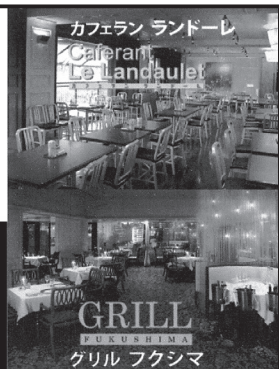


ご宴会・ご婚礼・出張料理
カフェランランドーレ・グリルフクシマ



五野精養軒

〒110-8715 東京都台東区上野公園 4番58号
TEL 03-3821-2181(代) FAX 03-3822-1330
<http://www.seiyoken.co.jp> 年末年始以外年中無休



れるんです。イランに行った経歴が残っているんですね。部下と一緒にアメリカの通関に並んでいますと部下は早い。私は、あなたこつちへと言われ、荷物を全部出して靴下まで脱がされました。まだ九・一一テロの前です。九・一一の後はおつとひどかったですよ。その後もう一回、二〇一〇年から二〇一三年にロンドンに駐在しました。その時は鋼管担当ではなく欧州組織の責任者でした。超円高でしたので、欧州企業の買収を多く手掛けました。欧州の景気が悪く、良い事業が安く手に入りました。

——関経連の「経済人」という本で中村さんのインタビュ記事を読ませていただきました。ロンドンでの中村さんの生活からにじみ出た提言で非常に示唆に富んでいます。ロンドンはそういう意味では色々学ぶこと多い都市ですか

中村 私はアメリカも大好きで素晴らしい国だと思いますが、イギリスは大した国だと思いません。まあ一言で言うと大人の国ですね。悪く言うとずるいというか、煮ても焼いても食えない、と思いますけど…。今回EU離脱を決めました。多分したた

かに何年かしたら離脱して良かった位にするのではと思いますよ。観光についても産業についてもそうです。自国でのモノづくりは衰退しています。自国企業ではロールスロイスやジェット機のBAE、他にBPという石油会社等の立派な企業もありますが、鉄なんか高級品は作っていない。素材は輸入頼りです。鉄道発祥地なのに、車両は輸入していません。それでも立派にやっています。規格は輸入規格を作っています。規格を作るとそれが好きな国民なので、規格を作るとそれをきちんとやらせれば自分達でモノを作らなくても欲しいものが手に入るという考え方なんです。ISOもイギリスが作った規格ですから。原子力発電所の建設を中国企業に発注しても、規格通りに作らせる自信があるのでしょうか。

——地球儀もロンドンが経度〇度でここが基準だと言わなければりですね

中村 時間から何かから規格をつくるのが彼らの成功法なんです。あれは考え方としてはすごくいい。デファクトスタンダードというんですかね。これはすごい勉強になります。

——金融センターとかいろいろな

取引所がみなあそこに集中していますね

中村 金融・保険みなあそこに集まっている。それと同じようにスポーツも…。テニスも最終的にはウインブルドンに集まる。ゴルフもラグビーも集まる。これを基準にする訳です。ゴルフも我々日本人は全英オープンと言いますが、向こうはジ・オープンですからね。ザがついた



オープンで、決してブリティッシュ・オープンとは言わない。要するに自分が唯一の基準で、あとはUSAオープンとかイギリスの真似みたいな。

——最近のEU離脱について、イギリスへの影響は？

中村 離脱しても何とか乗り切れると思います。今までも、通貨はポンドのまま自由貿易ができる権利だけは持って、E

Uには必要な費用負担だけしていたんですね。言ってみれば入場券・参加費は出すけど自国にプラス面だけエンジョイしているたんですね。ただEUのマイナ

ス面もあって、中東から難民が大勢来られると、それはEUのルールだから引き受けざるをえない。そういうマイナス面も含めて大きくなってきたので一旦出るが、出てもあまり変わらな

い。フランスはフランに戻れないし、ギリシャもドラクマに戻れないですけど、イギリスはポンドですから何の関係もない。通貨安のマイナス面はあります

が、逆に輸出にはプラスになり、足引つ張られるものから自由になって、したたかに生き残って離脱をプラスにもって行くのじゃないかなと思います。急に中国と仲良くしてAIBに出資したり、なかなか煮ても焼いても食えない国なんです。でも立派に独自性をもって生き残るという意味では立派な国だと思います。EUという大きな組織に埋没できない国民なんです。

——プライベートジェットのプライベートルを

——ロンドンの観光事業に対する国策が日本にこれから大事だ

という、中村さんのご意見もあつたようですが…

中村 日本はインバウンドも曲がり角に来ていることもあり、今まで一時的に百貨店なんか爆買いで儲かっていましたが、最近は大勢ガクッと落ちています。インバウンドのお客さんも、大阪はまだ多いですが地方へどんどん行かれますね。中国でパスポート持っている人は今でも僅か

5%位です。これが倍になるだけでえらい数になる訳です。まだ日本に来られると思いがすが爆買いではなくなるでしょうし、もう少し違う面でお金を

落としてもらうことが必要ですね。イギリスで素晴らしいと思うのは、日本や中国の観光客も行くんですが中東の企業オーナーたちも行きます。この人達は一夜で何百万使う訳です。こういう人達もちゃんと受け入れる器がある、ロンドンはそのような都市構造なんです。日本の場合インバウンドでどれだけ多くの人に来てもらいたい底辺を広げるか、逆に言うところだけ安く来てもらって、おもてなしをして

二回目三回目来ていただけるようにするか、が主流ですね。一方、金持ちの人は中国も中東も

ロシアも大勢います。日本の金

持ちの比じゃないですね。相続

税のない国も多い。日本のよう

に三代で終わるような国は珍し

い訳で、お金があつてしようが

ない人達が結構いるんです。そ

ういう人達に日本に来てもらつ

て大いに使つていただくことも

必要ではないか、そういう視点

はなかなかないですね。そうい

う人は定期便は使わないです。

みなプライベートジェットで来

ます。羽田でプライベートジェ

ットの所に着けてそのまま出て

行く訳です。帰りもそのままサ

ッと帰る。プライベートジェツ

トのターミナルを整備する、専

用のリムジンサービスやると

か、まだまだあると思います。

医療もそうです。日本で医療を

受けた人は沢山います。日本

の医療技術は素晴らしいですか

らね。いま中東の人はアメリカ

に治療に行きます。ヒュースト

ンなど医療が高度ですからそこ

へ行くんです。日本も山中教授

がやってもらえるようなIPS

細胞とか高度な医療技術があ

り、お金持ちの人は何億でも使

つて治ればハッピーという人が

沢山おられるので、そういう人

に来てもらうことを考えるのも

必要だと思います。

自転車の利用をもっと

——これからの観光を考えると？

中村 二〇〇〇年に私がロンド

ンに行った時は渋滞で車が動か

なかった。ところが二〇一〇年

に行った時は車の数が激減して

自転車が増えている。自転

車道路も整備したが、整備し

ている自転車の数も半端じゃな

いんです。ところが自転車の整備

に市はお金を出していません。

自転車に広告を載せることを考

えるんですね。スポンサーシッ

プを募ったらパークレーという

銀行がスポンサーになりそのお

金がドーンと入った。それで市

が自転車をかう。その自転車を

利用者にレンタルするんです。

市は広告収入とレンタル料の両

方を得ています。税金を使う前

に宣伝・スポンサーシップでド

ンとお金を持つてくる、そうい

う発想が勉強になりますね。自

転車の利用は、インターネット

で申し込むとICカードをくれ

ます。各所にある自転車ステー

ション（駐輪場）へ行つてそれ

でピッとやったら自転車がカチ

ヤッと外れて利用者は行きたい

所へ乗つて行けばいいんです。

ードさえ買えば自由に自転車を

使える。観光客はプリペイドカ

ードですが、住んでいる人はク

レジットカードになっているの

で便利です。それで自転車が朝

夕色んな場所のステーションに

溜まりますね。このステーション

はカラ、あちらは満杯という

ように。するとロンドン市ので

つかいトラックが来て、ガサー

ッと何十台かそのまま積んで、

空のステーションにポンと置

あるか全部コンピューターで管

理しているの、自転車の再配

分はガサッと場所を変えるだけ

です。日本の発想は、多分トラ

ックで余分の自転車を積んで、

足りない所に自転車を置いてい

る、すごいなあと思いますね。

——そういう知恵を日本で使う

とまだまだ良くなりますね

中村 やることは沢山ありま

す。自転車をもちと普及させた

らいいと思うし、そのためには

バスとか電車に自転車を乗せら

れないといけない。公共交通機

関に、自転車を乗せるスペース

がないと、普及しないじゃない

ですかね。

——二〇二〇年の東京オリンピ

ックにはそういう自転車で走り

回のお客が増えるといいです

ね。ロンドン市街の車が減った

のは他に何か策があつたのだす

か

中村 車が激減した理由は、東

京でいえば山手線内のエリアへ

車が入った途端、課金するんで

す。コンジェクション・チャー

ジつまり混雑消費ですね。そ

れは結構なお金になる。どの道

にも監視カメラがあつてエリア

へ入った途端、車のナンバーを

撮る。入りたい人は事前にネッ

トで今日入りますよ、と言つて

カードで前払いしておきます。

何にもせずに入つたら、出た途

端に郵便で請求書がくる。それ

が前払いより遥かに高い。一週

間無視するともっと高い。だか

ら郊外に駐車して電車で来る。

それで市街の車が減つて、郊外

に駐車場が増えました。バスと

タクシーは対象外です。観光客

は「二階建てバス」に乗つてス

ムーズに観光を楽しめます。エ

リア内に住んでいる人は登録し

て年間払いし、かなり安い。こ

れを導入したのがこの前EU離

脱やれと言つた、前のロンドン

市長のボリス・ジョンソンで

す。一大改革なのにあつという

間にやるんです。ワーッと広め

て何日からやりますよと、日本

だったら大混乱なのにコンピュ

ーターで何月何日実施と、あつ

という間にやつてしまふ。監視

カメラとITを駆使してね。

——日本もまだまだやることい

つぱいありますね

中村 日本には素晴らしい観光

地が随所であり、おもてなしの

精神と高い安全・安心がありま

す。そういう「日本らしさ」「日

本ならではの」といった価値を民

間・行政を含めたトータルマネ

ジメントで生かしていけば経済

効果は言うまでもなく日本のプ

レゼンスが世界中で飛躍的に高

まると思います。

——本日はお忙しいところ貴重

なお話をいただき、ありがとう

ございました。



データサイエンス学部の 創設にかかわって

滋賀大学データサイエンス
教育研究センター長

竹 村 彰 通

新設のデータサイエンス学部
に一〇〇名の新入生を迎える時
が近づいて来ました。ここでは、
個人的な事情や感想を含めて、
新学部の準備状況について書き
てみたいと思います。

彦根に単身赴任

私は二〇一五年五月より滋賀
大学と東京大学の併任（クロス
アポイントメント制度）を開始
し、二〇一六年四月からは滋賀
大学の専任となり、新学部創設
の準備に携わってきました。専
任となった後は、彦根に単身赴
任し、文科省や企業訪問、シン
ポジウムでの講演など東京に出
張のある時を除いて、週日は彦
根におります。週末は東京の自
宅に戻ることになっていますが、
最近では週末にも入試関係の仕事
などがあり、東京に戻らないこ
とも多くなりました。

滋賀大学との縁

私が滋賀大学に行くきっかけ
となったのは、佐和隆光前学長
からの電話でした。もう二年く
らい前のことになりました。実は

佐和前学長は、私の大学時代の
ゼミ（東京大学経済学部竹内啓
ゼミ）の先輩です。私がまだ大
学院生の頃に、佐和先生がアメ
リカのイリノイイ大学におられ

て、夏休みに二か月ほど研究補
助でアメリカに呼んでいただいた
ことがありました。そのような
関係で、私が大学院生の時に
は佐和先生と親しくさせていた
できました。その後は、時々竹
内啓ゼミ会でお目にかかる程度
でしたが、久しぶりに佐和先生
から電話いただいたら、それが

「滋賀大にデータサイエンス学
部を作るから是非君が中心とな
ってやってほしい」というお話
でした。私は、日本統計学会の
会長なども務め、日本の統計教
育にも尽力してきましたので、
佐和先生は私が適任と思われる
ようです。ゼミの後輩なので頼
み込めると思われたのかもしれ
ません。私自身、そろそろ東京
大学から他の職場に移ることも
考えておりましたので、お引き
受けした次第です。

東京大学は、長いあいだ他の
大学より定年が早く、今でも六
〇歳を過ぎると早めに後輩に席
を譲ることが望ましいという考
え方があります。ただし、最近
は大学の教員ポストも減ってお

り、東大を退職しても、第二の
職場を見つけてるのはかなり難し
くなってきました。

やりがいのある新学部創設

さて、滋賀大学の新学部設立
の仕事をお引き受けし、日本初
の統計学に重点をおくデータサ
イエンス学部の設立ということ
で、大変やりがいのある仕事を
担うこととなりました。一方で、



新学部設立準備は予想以上の業
務量であり、業務の内容もそれ
までと全く違うために、「老骨
に鞭打つ」状況になっており、
後悔めいた気持ちや頭をよぎる
こともありえます。しかしながら、
一度お引き受けした仕事であ
り、体調にも気をつけつつ新学
部が軌道に乗るまで何とか責務
を果たしたいと考えています。

企業との連携・外部資金の導入
データサイエンス学部設立準
備の中で、おそらく他の大学の
新学部と比べてより大変なの

は、企業との連携や外部資金獲
得の活動です。データサイエン
ス学部の教育では、実際の企業
や地方自治体のデータを学生が
分析する経験を積むことが重要
と考えています。また、研究面
でも教育面でも、データサイエ
ンス学部をこの分野の日本の拠
点として発展させるには、若い
スタッフを充実させることが必要
です。しかしながら、国からの
運営費交付金の面で滋賀大学
のおかれた現状では、若いスタッ
フを充実するには、外部資金を
獲得することが必要な状況です。

このため、私のみならず、佐
和前学長がデータサイエンス教
育研究センター特別顧問とし
て、また須江雅彦副学長・理事
もさまざまな企業との連携活動
を進めていただいています。小
椋理事長をはじめ、陵水会の皆
様にも、企業連携について大変
お世話になっております。

新聞等でご存じかもしれませ
んが、京都銀行及び滋賀銀行と
は、ビッグデータ分析を視野に
入れた連携協定を締結しまし
た。その他、データサイエンス

クレド アドバイザーズ株式会社

代表取締役社長 門平 孝二郎 (大19回)

〒113-0034 東京都文京区湯島 2 - 4 - 3 - 403

TEL 03-6303-2455 FAX 03-6303-2456

E-mail : credo-ad@biscuit.ocn.ne.jp



学部のホームページにあるように、すでにいくつかの企業と連携協定や共同研究協定を締結しておりますし、現在でも多くの企業と連携交渉中です。

データサイエンスの需要は大きい
以上のように、企業との連携活動を進めることは労力がかかりませんが、一方で企業の方とお話していると、データサイエンスに対する社会的な需要の大きさを実感します。私が訪問する企業の担当者の方は、「最近データがたくさんとれるようになったがまだまだ活用できていない」「データサイエンティストがぜひ必要だ」と言われることが多いです。また企業内の人材の再教育についても聞かれます。

社会人再教育のためには、大学院設置も早める必要があります。そのため作業も大変なものです。大学院設置はデータサイエンスを滋賀大学のブランドイメージ化するための重要なステップです。ぜひ陵水会の皆様の物心両面にわたるご支援をお願いいたします。

■ 陵水帆人会関東支部

今 田 淳 (大32回)

陵水帆人会 (ヨット部) OB
会) は、平成二十八年現在会員

数三百三十二名で、関東支部・関西支部・中部支部の三支部を中心に活動しております。関東支部の会員数は現在八十二名 (東北以北居住者を含む) で、現役支援・親睦を目的に活動しております。

《クラブの状況と現役支援》

琵琶湖に隣接する彦根というまさに地の利を得た他大学にはない抜群の環境のもと、過去にはインカレの常連校であり、インカレ優勝こそ果たせていないものの、総合・クラス別を含め二位六度・三位七度などの成績を残し、また現役時代に世界選手権 (ワールド) に二年連続で出場した天川氏 (大29) や卒業後社会人で同じくワールドに出場した白子氏 (大33) など輩出した輝かしい歴史を持つヨット部ですが、近年では部員数の低迷等もあり、インカレ出場はなかなか果たせていない状況にあります。そこで昨今、特に関西支部・中部支部のOBが中心となり、新入部員の勧誘支援や現役部員へのコーチングに積極的に尽力した結果、平成二十八年度には、新入部員数も十七名の確保を果たし、総勢三十五名という一時期を彷彿させる陣容でスタートすることができま

した。毎年五月には彦根でOB総会が開催されており、今年度の総会は部員数の大幅な増加により大変な盛り上がりを見せ、参加した各OBもヨット部復活への確かな手応えを感じ、今後希望の光を感じさせてくれる会となりました。また、老朽化が進んでおりましたが、艇自体の性能で他大学に差をつけられていた現状に対し、OB会長の河原会長 (大20) を中心に多数のOBの支援を受けて新艇の調達に取り組んだ結果、今年度は五月と十月に各クラス三艇ずつ、計六艇の最新仕様のレール艇を建造・所有することができました。まさに往年のヨット部の復活に向けて着実に歩みを進んでいるところであり、近年の悲願であるインカレ予選突破を目標に様々な取り組みが行われているところと見られます。

《親睦》

毎年五月の彦根でのOB総会・七月の陵水会東京支部会・十二月もしくは一月の忘年会・新年会を兼ねた関東支部総会を中心に親睦・情報交換・意見交換を行っております。支部総会には彦根から現役の学生やコーチを招待することもあり、現

役への激励も会の目的の一つになっております。関西支部・中部支部でも同様に支部総会が開催されており、各地区で相互の親睦や現役部員への支援・激励が行われております。いずれの会でも、会の最後には伝統のエルと彦根高商歌で締められるのもまた恒例の一つです。このエルは、ヨット部OBの滋野氏 (大17) によって考案され、クラブに代々継承されているもので、

陵水会東京支部会での締めの際もヨット部・ボート部の両部OBが壇上に上がらせていただき披露させていただいているのもまた恒例となっております。大変好評をいただいているところで、そのほかにも彦根周辺でのゴルフコンペも毎年の様に開催

されており、OB相互の親睦と結束に向けた支部横断的な行事も積極的に行われております。

《結び》

現在、OB会組織の中には現役支援を目的に各種委員会が設けられており、現物支援のみならず確かなシーマンシップの伝承と技術向上に向けた支援体制が組まれております。今後も現役部員のインカレ予選突破に向けた多方面での支援が図られていくものと考えており、現役が檣舞台で活躍する姿を間近で応援できる日を待ち遠しく感じているところと見られます。

《役員名》

会長 河原 正喜 (大20)
関東支部長 今田 淳 (大32)

学生のあつち

井口 博 民 (本21)

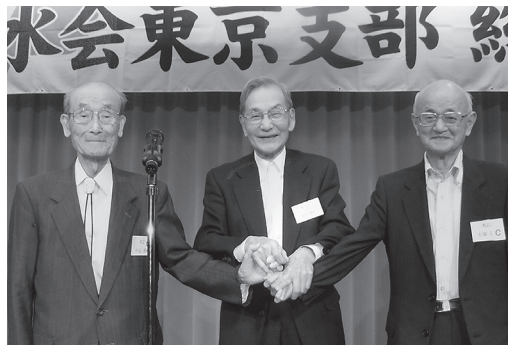
昭和十八年 (一九四三年) 四月八日、大東亜戦争も少々劣勢になってきた状況下であったが、我々にとって新しい年の幕開けであった。彦根高商本科二十一年生 (一六三名) 及び東亜科五回生 (五十七名) の入学式が現存する講堂で盛大に行われた。

第一学年は平穏に過ぎた。但し、夏休み、冬休み、春休みは



帆人会の集まり

短縮され、遠方から来ている人は帰れず彦根在住が多かった。また、寮の食事といえど若いものにとつては量が足らず市内の食堂のお世話になった。「丸正」のどんぶりが五十銭、「ござれ食堂」の定食が山盛りのご飯とみそ汁、香の物で二十銭、「梅園」の焼き飯が八十銭（うまかった！）等々思い出が深い。昭和十八年十月学徒出陣で同級生でも入営者があり、その壮行会があった。その時の写真が一枚、これが我々の彦根時代に唯一の集合写真である。



本科21回生、中が井口さん

昭和十九年八月勤労動員令により、名古屋の大同製鋼へ、三工場に分かれて終戦まで生産に従事した。その間、それぞれ陸軍の特別甲種幹部候補生、海

軍の予備生徒に志願入隊、徴兵で入隊したりなどバラバラになった。小生は、宇和島出身の石丸良久君と大津にあった天虎飛行訓練所に入り終戦まで赤とんぼで飛行訓練に明け暮れていた。終戦後自宅に帰ってきてさやかな畑つくり、芋の買い出しなど食料の確保に大わらわだった。その間に彦根経済専門学校と名称変更になった。卒業証書を郵送で受け取った。

学校創立七〇周年の式典の同期会で平成七年に卒業五〇周年を記念して卒業式をやるうと決まり、それとともに彦根時代及び終戦後の生きざまなどを綴って文集を作ろうと言うことになり、それぞれが書いた原稿を思い出の文集「二一五の集い」（ふいごの集い）を作り当時の先生方にもご出席いただいて卒業式らしきものを挙行した。自分の感覚ではこれで陵水会員になれたと思った。

飛行訓練生の同期会も年一回行われたが、彦根同期の石丸良久君は宇和島在住でありながら、開催地の関西、北陸、中京、等々までも必ず出席していた。片道六時間くらいの工程を酒を友として往復していた。たまたま、名古屋の西浦温泉で開催。翌日

は船で伊良湖岬へまわった。島崎藤村の有名な「椰子の実」の作詞された場所である。石丸君はベンチに立ち上がり「俺は一度この地へ来たかったのだ」と涙を流しながら歌いだしたのだ。それを見て彼の純粋さに小生も合唱した。その彼もこの世にいない。寂しい、実に淋しい。

「近頃の想い」とデータサイエンス学部

宇治原 嘉政（六七）



平成十五年（十八年）
陵水会
東京支部長

このたび母校に「データサイエンス学部」が新設されるといふ報せに接し喜びに堪えません。二十世紀がハードパワーの時代と言われるのに対し、二十一世紀はソフトウェアの時代であると言われております。あらゆる設備や機器がインターネットにつながるIoTは破壊的イノベーションをひき起し、第四次産業革命をもたらすものと予想されております。そしてデジタル技術が価値を生み出す分野はアプリやサービスからデータと

AI（人工知能）に移りつつありとされ、データサイエンスの役割はますます高まりつつあると言われております。母校から輩出されるデータサイエンティストが日本のソフトウェア強化の一翼を担う時代が来ることを期待したいものであります。さて、振り返ってみますれば二〇〇二（平成十四）年当時の小池東京支部長より次の支部長をと要請され自信なきまま戸惑いながらお引き受けることになりました。長い海外勤務もあり、陵水会員諸兄との接点もほとんどなかったため会員諸兄との接点構築から始めなければならぬと思いつつ不安と心配が先行しておりました。しかし有り難いことにそれらは杞憂に終りました。先輩後輩諸兄より当初から温かいご支援ご協力を戴き、滋賀大学経済学部創立八十周年記念事業としての寄付金集め、産学連携としてのOBによるセミナー講師派遣、それから東京陵水会の卒業年次OBによる総会持ち回り開催等ご協力いただきなんとか任を全うすることができ、いまでも感謝の気持ちでいっぱいでありませう。

（彦根に地方創生を思う）
私は、今は五十年ぶりに郷里彦根の生家に戻り静かに暮らししております。この半世紀の家の周りの変わりようは大変なものであります。家の前の旧中山道は子供のころ子供たちの声で溢れておりましたが、今はすっかり消え失せ時折通過する車の音だけでありませう。人の話す声もほとんど聞かれませう。上下水道の完備、ごみの収集等環境整備は進みましたが、過疎化は今も止まりませう。新聞には「地方創生」の字が乱舞しておりますが、現場の担い手不足に解消の目途はたつていません。最近のICT（情報通信技術）の進化によって過疎化をどのように食い止めるのか今後の試みが待たれるところであります。

（トランプ氏に会う）

また、さらに目を世界にむけてみますと地球規模で不穏な状況が広がっております。アジアでは北朝鮮・中国がそれぞれ近隣諸国に脅威を与え、中近東では宗教・民族抗争に収拾のめどが立たず、欧州では移民の排斥を中心に国粋主義的政党の台頭が報じられております。米国では世界の紛争の調停者としての役割を放棄し、内向き志向が強くなり、その動きがトランプ候補（本稿執筆時点）の言動に現

れております。ニューヨーク駐在時、米銀との協調融資案件(マシソン・プロジェクト融資)でトランプ氏のオフィスを訪ね面接したことがあります。彼の部屋に入るや小生をすぐにプロジェクトのマンシヨンの模型の前に案内し、このマンシヨンプロジェクトが如何に素晴らしいかを熱意を込めて説明してくれました。その時「この男は天才的なセールスマン」だと感じ入ったことを覚えております。天才的なDEALMAKERと自他ともに認めてきたトランプ氏が、共和党候補の座を勝ち取るべく如何に的確に共和党員の不満をすくい取るか、そこでどのような言辞を弄することになったのでは...と推察されます。しかし彼の言動で米国内の格差の拡大が改めて認識されるとともに米国の行く末を案じた方も少なくありません。

〈ソフトパワーの時代に望む〉

レーガン大統領領から始まった規制緩和と貿易自由化の推進は、その後の大統領領にも受け継がれ米国のGDP拡大をもたらしました。米国民のボトムアップには貢献せず米国民の格差拡大を招き米国民を内向き志向にさせ、トランプ旋風を引き起こ

したというのが大方の見方であります。さてそれではGDPのパイを拡大しながらパイの分配に公平を期するにはどうしたら良いのか、未だその解は見いだせない状況であります。片や中国をはじめとする新興国では、国民の人権を束縛しながら独裁体制の下GDPの拡大に邁進しております。この動きに二十世紀は米国の大きく立ち遅れたかってきました。今やその力を減じつつあります。自由と民主主義が疎んじられるような兆しさえあります。このような傾向に歯止めをかけ、自由と民主主義に基づく平和で豊かな社会を永続させるために、二十一世紀はソフトパワーが力を発揮していることが強く望まれております。

「東京陵水会との関わり」

(陵水会第八代、

川瀬理事長時代を中心に)

柴原良昭(大17)



私は、昭和四十四年三月、大学卒業と同時に日本生命保険相互

会社に入社しました。勤務は本店(大阪)、名古屋支社、東京本部の三地域で、東京は二十九年余の勤務生活でした。他方、大阪、名古屋では、総会等にも一度も出席したことはなく、陵水会との関りは希薄でした。
川瀬理事長との出会い
日本生命では、昭和五十七年七月、彦根高商本科十二回卒の川瀬源太郎氏(当時副社長)が、戦後二代目の社長に就任されました。川瀬氏は、その社内経歴から、貸付、証券投資、不動産、国際関連等の資産運用部門との関りが深く、社内では煙たがれるほどの厳格な性格でした。前社長(会長)の弘世現氏が社長在位が三十五年間と長期でしたので、秘書体制等の見直しが行われ、比較的資産運用部門が長かった私が、昭和五十七年七月、秘書役に任命されました。

川瀬社長の最初の仕事は、社長就任の挨拶回りでした。最初は主務官庁の大蔵省(現在の財務省、金融庁)で、当時の渡辺美智雄大臣も表敬訪問しました。永田町では、後輩の宇野宗佑氏(後に総理大臣)、河本嘉久蔵氏(後に国土庁長官、アヤハグループ創業者、彦根高商時代は川瀬氏と同期で親友)、伊

エレベーター等、輸送機械の営業、設計、製造、据付
保守サービス、モダニゼーションに関する全業務



守谷エレベーター

ISO9001 認証取得

守谷輸送機工業株式会社

代表取締役社長 守谷 貞夫(大12回)
田村 寿夫(大12回)

本社・第一工場 〒236-0004 横浜市金沢区福浦1-14-9 TEL(045)785-3111 FAX(045)780-1881
東京支店 〒104-0032 東京都中央区八丁堀3-12-8八丁堀SFビル7F TEL(03)6228-3460 FAX(03)6228-3350

大阪支店 福岡支店 宇都宮工場 名古屋支店 札幌出張所 上海守谷電梯有限公司

藤忠商事越後相談役（八幡商業先輩）らを訪問。また、彦根高商先輩の北村さん（オリンパス光学工業社長）、池田さん（丸紅社長）、夏川鉄之助さん（彦根高商同期、オーミケンシオーナー）らを順次訪問されました。

後日談ですが、河本嘉久蔵氏が国土庁長官（大臣）に就任されたとき、「新任大臣に聞く」とのタイトルで、参議院議員会館でNHKの収録が行われました。当時ニュースキャスターとして売り出し中の、宮崎緑さんがインタビューでした。

川瀬氏は多忙の中、社長就任後も陵水会諸先輩方等との交流を重視され、可能な限り東京陵水総会等に出席されました。当時の総会は大手町の産経ホールでした。私も随行方々出席させていただきました。これが私の陵水会との初めての関りでした。宇野宗佑氏（当時衆議院議員）ほかの方々も出席され、川瀬社長と親しく談笑されていました。

川瀬理事長就任

昭和五十七年秋頃、第七代陵水会本部理事長の高安規玖次さんが来社され、面会を求められました。川瀬氏に陵水会の理事長になって欲しい、との要請でした。川瀬氏は何度も固辞され

ましたが、高安さんの熱意ある説得もあって、高安さんの後任となることを承諾されました（川瀬氏の理事長期間は昭和六十一年・六十六・六十三・六六）。

この折、私にも東京陵水会役員（副幹事）となるよう要請がありました。川瀬氏が陵水会理事長ともなれば、会社の秘書としての対応だけでは不十分であり、陵水会内部に入ることが必要との思いから、私も東京陵水会副幹事をお引き受けすることにしました。

当時の東京陵水会は、佐野了さん（佐野オフセット印刷社長）が支部長で、幹事会（支部長・正副幹事・監事出席）は、大学先輩の田中実さんがオーナーの京樽のご好意により、そのお店や本社事務所（人形町）等で開催していました。暫くして、東京陵水会支部長は佐野さんから川本さん（大学一回卒）、幹事長も箸方海三さん（大学四回卒）に変わりました。本部評議員も幾分変わり、川瀬新理事長体制サポートの趣旨を含め、小生も評議員に選任いただきました。

当時、東京支部総会は年二回夕刻、産経ホールで開催されました。この頃も課題は、「如

た。そこで私は、総会等に参加していた新会員など、若い会員に積極的に話しかけ、継続的な参加や「友呼び」を勧奨しました。その成果も幾分あってか、会員数は漸増傾向を辿るようになりました。

その後、産経ホール建替え計画と共に、場所を新橋第一ホテルに変更しました（陵水会先輩で同ホテル取締役の高山さんのご尽力）。私も関連会社の協力を得て、日比谷の日生会館七階ホールで開催したこともありまし

た。現在、総会は年一回、場所も上野精養軒で昼食時に行われていることは高承の通りです。川瀬氏が、新理事長に就任された頃の評議員会は、前々任理事長（昭和五十六・二・五十七・六）による、新入生からの「入学金支出問題」、即ち、「中国からの留学生支援資金として、理事長が独自の判断で入学金の一部を支出していた問題」、が大部分となり、大荒れの評議が続いていました。要点は、入学金という預り金を、一般会計の中で理事長判断で支出することの是非でした。評議員会は毎回、終了時刻が何時になるかわからないほど議論百出、混迷を深めていました。川瀬氏は、これを

整理し、預り金として「入会金特別会計」とする現在の会計制度に是正し、この議論を収束しました。この問題は、その後の公益社団法人陵水会学術後援会創立と、そこへの毎年度の一般会計からの拠出金勘定（繰り入れ）とも関連しているようです。川瀬理事長時代も、地方大学存続・再編等の問題が中央で議論されていたようです。大学側も危機感を持ち、大学の特色を打ち出す趣旨から、新学科創設を企図し、文部省（現在の文科省）に陳情等要請していました。大学からの協力要請もあり、川瀬理事長は、関西財界の友人、川勝三和銀行頭取と共に森喜朗文部大臣（当時、後に総理大臣）を訪問し、陳情されました。その効果も少しはあったのか、大いに新学科新設が認可されたというところもあったようです。

樋口理事長後任へ

川瀬理事長は、その後の大隈川・陵水会の存続発展を見据え、「スーパードライ」の販促でアサヒビールを大飛躍された樋口廣太郎さん（住友銀行副頭取から転出）に理事長就任を要請され、その承諾をいただきました。樋口廣太郎さん（第十二

年）は、その後中央を含め、大いに理事長として活躍いただいたこと、ご高承の通りです。

ところで、昭和六十三年頃、京都の松村、名古屋の築瀬、福井の上山ら七名の同期諸君が東京に集まり、大学卒業後二〇年周年の同期会（昭和四十四年卒業）開催をテーマに会合しました。同期会第一回は、平成元年、彦根で実施しました。その後同期会は、彦根、京都、名古屋、東京で定期的に開催しています。大学同期で親友の南寿君（当時名古屋居住）から、ある日、突然電話があり、「会社の会議中、くも膜下出血で倒れた。術後は歩行・口述が不自由となった。名古屋の銀行でどこか勤務できるところはないか」、との内容でした。築瀬君（当時名古屋銀行専務、後社長）とは、前記の通り改めて交友ができたこともあり、相談したところ、築瀬君は早速人事部門等と調整し、南寿君を名古屋銀行で採用いただくことができました。南寿君は六十五歳（平成二十三年）まで同銀行に無事勤務することができ、築瀬君には大変感謝していました。

一例とはなりませんが、斯様に、平素の人的交流だけに止ま

らず、その関りにより助け助けられることもあり得るとの思いを強くしました。このことを常に念頭に、今後とも陵水会との関りを持ち続けるようにしたいと思っています。

彦根の日本遺産

植野克美(大23)

滋賀県には心地よく愛でることのできる里山があります。湧水も多く、彦根市周辺だけでも、彦根市西今町の十王村の水(名水百選)、米原市清水の泉神社湧水(名水百選)、米原市醒井の加茂神社居醒の清水(平成の名水百選・日本武尊が熱病に倒れた時、休毒を洗い流した霊水との伝承も伝えられます)、十王水、西行水などがあります。

これら鈴鹿山系を主な源とする水は川となったり伏流したりし、最後にはそのほとんどが琵琶湖へ流れます。

さて、皆様は文化庁が認定する「日本遺産(Japan Heritage)」(地域の歴史的魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語る)をご存知でしょうか。

「水の文化」三態

日本遺産滋賀『琵琶湖とその水辺景観―祈りと暮らしの水遺産』に認定されたストーリーは、

リアル型(大津、彦根、近江八幡、高島、東近江、米原、長浜の七市)で、その概要は、穢れを除き病を癒すものとして祀られてきた水です。琵琶湖の周囲では、「水の浄土」の教主・薬師如来が広く信仰されてきました。ちなみに、重要文化財指定の「薬師如来」の数は日本一多い四十五件あり、その多くは平安時代からの古仏です。

日本遺産に認定された滋賀県の「水の文化」は三つのテーマにカテゴライズされています。

『水と暮らしの文化』(12) 『水と食の文化』(1)が認定されています。そのうち、彦根市からは『水と暮らしの文化』で三か所が選定されています。

四年もしくはそれ以上の時間を彦根の地で共有された陵水会OBの方々にはそれぞれがとても懐かしい場所であると思えます。

・その一 玄宮園

そのひとつは、玄宮園(玄宮楽々園)です。玄宮園は彦根城の北東にある日本を代表する大名庭園で、中国の瀟湘八景にちなんで選ばれた近江八景を模して作られています。池泉回遊式庭園で池は城下町の湧水を外堀

からサイフォンの原理により導水し、小島の岩間から水を落として滝に仕立てるなど、水を巧みに取り入れた芸術的な景観となっています。楽々園は歴史的建造物などで構成されており、隣接の玄宮園とともに玄宮楽々園として国の名勝に指定されています。また、玄宮園には八景亭という大名庭園の中の料理旅館があります。全国的にも大変珍しいと言われています。



井伊家松原屋敷庭園

・その二 彦根城

二つ目は彦根城で、今年四月に追加認定されました。琵琶湖や内湖に接して築かれた「水城」で、堀は琵琶湖や内湖(大洞や松原)に通じ、敵の来襲からの守りだけではなく、物資の輸送路としても利用されています。

た。船着場跡や水運関係者の屋敷跡、船町という地名があることなどから、彦根城の堀により水と関わった当時の人々の暮らしぶりを読み取れる、との理由で選定されました。

・その三 お浜御殿

三つ目は旧彦根藩下屋敷(お浜御殿)庭園です。彦根市出身の小生も最近までほとんど知らなかったお庭です。大学裏から松原方面へ向かい松原橋(回転橋)を渡り、三〇〇メートルほど進んだ左側にあります。「かんばんの宿彦根」がお庭の反対側(松原水泳場側)に建っていますので、おおよその位置はご理解いただけると思います。

池泉回遊式庭園で、池の水は琵琶湖の水位と連動して波打ちざわが変化します。日本で唯一の淡水を利用した汐入型式の庭園です。池を中心に、西側は洲浜の広がる緩やかな景観とし、東側は築山が折り重なる深遠な趣となっています。

された下屋敷の庭園です。彦根藩のもう一つの下屋敷である楓御殿(玄宮楽々園)とは立地や趣も異なり、公式性を離れた井伊家の内向きの庭園を主体とした下屋敷でした。

明治四年(一八七一年)の廃藩置県後、彦根における井伊家の居宅はこの屋敷が用いられていたため、その全容が世に公開されることはありませんでした。庭園については、昭和五十七年度に奈良国文化財研究所(現在の奈良文化財研究所)により調査が実施され、彦根市教育委員会でも平成十二年度に庭園や歴史的建造物の調査、植生調査、そして測量調査などを実施しました。これらの調査により、松原下屋敷の庭園が玄宮楽々園とは様相の異なる大名庭園であり、近世の大名文化を理解する上で欠くことのできない貴重な文化財であることが明らかにになりました。

毎年、春秋に公開

平成二十一年以降、毎年新緑の春と紅葉の秋に特別公開されています。今までご紹介しました三か所は、いずれも水にかかわる名勝として彦根を代表し選定されましたが、もちろん彦根には他に

も多くの名所・旧跡がありま
す。彦根にお立ち寄りの際は、
是非お越しく下さい。

陵水会の女性会員

として思うこと

湯浅友枝(大57)

大五十七回卒の湯浅友枝と申
します。早いもので、私が陵水
会・東京支部総会に参加するよ
うになりました、六年が経ちま
した。

私が、初めて参加いたしまし
たのは、今から五年前の平成二
十三年度の総会でございました。
参加のきっかけは、就職を機
に彦根から東京に転居して三年
目を迎え、仕事中心かつ東京で
の生活や人付き合いに、疲れを
感じ始めていた時でした。郷愁
というのでしょうか、こちらで
も滋賀大経済の方々と交流した
いと思ひ、陵水会東京支部に連
絡しましたのが参加のきっかけ
です。

女性会員

この原稿を書くにあたりまし
て、この六年間のご出席者名簿
を見返してみました。私が、初
めて参加いたしました年(平成
二十三年度)のご出席者名簿に
よりますと、女性会員の参加者

は、五名ほど、私と同世代の参
加者も二〇名ほどでございま
した。

その時のことを思い返します
と、会場に足を踏み入れた時か
ら、女性の参加者が少ないこと
に驚き、大先輩方の迫力に圧倒
された記憶があります。

私のような未熟者が来てはい
けない場所だったのでは…と着
席して小さくなっていたことを
覚えております。

ですが、総会が終わるころに
は、暖かな愛情溢れる先輩方に
恵まれていること、世代の垣根
を超えて、共有できる時間があ
るといふことは、大変幸福なこ
とだと実感し、それ以来毎年参
加させていただいています。

今年(平成二十八年年度)の総
会の女性会員の参加者は、十五
名近く、私と同世代の参加者も
ゆうに四〇名を超えており、女
性会員・若い世代の参加者増加
を、肌で実感いたしました。

特に、私より後輩の女性会員
の参加が、顕著に増えているこ
とを嬉しく思います。

陵水会の役割

前述いたしましたですが、私は、
就職して三年目のよくある行き
詰まりを感じていた時に総会に
参加し、参加をきっかけに、狭

くなっていた視野を広げること
ができました。その良い影響が、
仕事や私生活でのその後の飛躍
に繋がったと感謝しております。

仕事における悩み、上司や同
僚には相談しにくいことも、陵
水会の諸先輩方には相談するこ
とができました。陵水会の持つ
暖かさや親しみ、利害関係が無
いからこそ、素直に話すことが
できたのだと思いますし、いた
だいたアドバイスや叱咤激励
に、私は何度も救われました。

私もそうですが、男性より女
性の方が、遠慮してしまったり、
抱え込んだり、思い詰めてしま
う傾向が強いのではないかと思
います。(悪く言えば、状況が
変わるまで耐えてしまう、シン
デレラということですが。)

だからこそ、色々な世代や業
界の方と接することのできる、
陵水会というパイプを持つこと
を、特に若い女性会員にお薦め
せすにはいられません。

今後も、卒業後、陵水会へ参
加する流れが後輩達に続いてい
けばいいなあと思います。

また、私より上の女性会員の
方々とお話できる機会も増えて
きました。主婦としても先輩で、
社会人としても第一線で輝いて
いらっしやる女性会員の方から

のお話やアドバイスは、自分自
身のワークライフバランスを考
える上でも、本当に有益ですし、
とても良い刺激を受け、励まさ
れます。

私も今年三十二歳。壮年にな
って参りました。輝きを放ち、
後輩へ暖かい愛情を持つ陵水会
会員になれるように、精進して
いきたい所存です。

歌集

「うみなる湖」の誕生



歌集 うみなる湖

第七回卒の浦谷政夫さんがこ
のたび、現代短歌社から素晴ら
しい歌集を刊行されました。浦
谷さんはリタイア後の平成十五
年より地元の川越のNHK文化
センターの短歌教室に入って以
来研鑽をかさねられ、このたび
「歌集 うみなる湖」という夢

のある歌集を世に出されまし
た。今回は数ある御労作の中か
ら、四二〇首が紹介されており
ますが、永らくのご経験から大
変幅広いジャンルの作品となっ



Heart Tree ハートツリー株式会社

業務内容

- ・和楽器ユニットのプロデュース。
 - ・映画「うみやまあひだ」のプロデュース。
 - ・環境に優しい企業ノベルティの販売。
- お気軽にご連絡ください。

代表取締役 **服部 進** (大37回)

〒105-0001 東京都港区虎ノ門2-7-16-405

電話：090-4940-8722 メール：info@heart-tree.com

ています。一例をあげますと、ふるさと びわこ 御両親 職場のあった日本橋界隈や都心のあちこちの観察や印象 日常の暮らし。そして奥様に関する愛情あふれる思いなど読む者に深い感銘を与える作品が満載となつております。

そのご労作の一端をここに紹介いたします。右窓に伊吹山なる秀峰を望みて田舎にかへりきたれり地の人は琵琶湖をうみと崇めたて汚さざらんと努めてきたり土の色の濃きは肥ゆるのあかしとぞ農にいそしむ父に教はる食べたきはもろこの田楽ほくほくと父の作りし真水湖の味織維にて産業立国担ひたる鐘紡伊藤万のいまはなし冬日さす日比谷の森に風吹きて



東京陵水ゴルフ会

(第一〇二回〜第一〇五回)

《開催の主な内容

《新規参加大歓迎!》

開催時期：年四回、(四月上旬・六月中旬・九月下旬・十二月

上旬に開催)

開催場所：金乃台カントリーク

ラブ(カートなし)

順位決定：同ネットの場合、高

年齢者↓ローハンドの順とする

ハンディキャップ：10回ごとに

ハンデ改定を実施、上限40、

80歳以上+6 75歳以上+3

する。

【新規参加希望の皆様へ、

新規会員大歓迎!】

成 績 (賞金獲得者)(卒年)

平成27年12月6日 8組30名

宿場町に生まれし病妻が本陣をかたれる眼の輝きてみき

本「東京陵水」としましても前一〇三号の林史欣さんの「私と短歌」の記事に続いて、文化かおる記事をお届けできました。浦谷さんのさらなるご研鑽と次なる歌集の発刊を期待したいものです。

田川 行雄 (大9) 記

特筆事項

①井口選手、89歳11カ月で7回

目の優勝。柴田茂夫選手、86

歳6カ月で5度目の優勝と大

先輩の活躍が光った!

②大17回蔵田選手2回目の優

勝、3回目出場の若手の中岡

選手が初優勝、また、守谷杯

取り切り戦では、大17回の川

崎憲夫選手が守谷杯カップを

獲得と、若手の活躍も光った。

7名の新規会員加入があった。

各回の戦績・優勝者はじめ飛

賞も含めた賞金獲得者名は下記

の通りです。

第一〇二回大会 (本21回 井口

博民選手、89歳11カ月で7回

目の優勝)

平成27年12月6日 8組30名

成 績 (賞金獲得者)(卒年)

成 績 (賞金獲得者)(卒年)

成 績 (賞金獲得者)(卒年)

成 績 (賞金獲得者)(卒年)

ネットスコア(ハンディキャップ) 優勝：井口博民(本21) 70(36)

準優勝：中西三一(大5) 70(31)

(82歳)

三位：北澤勝太郎(短5) 71(25)

四位：平本義則(大23) 72(13)

五位：平井俊夫(大12) 73(23)

七位：柴田吉典(大19) 74(17)

十二位：名口幸夫(大14) 77(13)

十五位：小梶清司(大18) 77(15)

二十位：田川行雄(大9) 84(9)

二十五位：小口 晃(大14) 87(21)

BB賞：加藤博善(大14) 91(23)

ベスグロ：平本(大23) 82

ドラコン：小梶・岡本

ドラ短：蔵田・守谷

ニアピン：北澤・田口・名口・

金井・小口・兼松

第一〇三回大会(大17回 蔵田 昭夫選手2度目の優勝)

平成28年4月12日 8組28名

成 績 (賞金獲得者)(卒年)

ネットスコア(ハンディキャップ)

優 勝：蔵田昭夫(大17) 69(25)

準優勝：柴田吉典(大19) 70(17)

三位：小梶清司(大18) 72(15)

四位：畠山義生(大10) 73(19)

五位：平井俊夫(大12) 73(23)

七位：木戸 彪(大16) 74(34)

十位：高居健二(大18) 76(27)

十三位：中岡浩三(大23) 77(28)

二十位：山本 保(大15) 81(27)

二十三位：北澤勝太郎(短5) 84(22)

BB賞：井口博民(本21) 89(24)

ベスグロ：小梶(大18) 87

ドラコン：小梶・田口

ドラ短：守谷・滋野

ニアピン：平井・名口・鶴見・



丸居・田口・柴田

第一〇四回大会(大2回) 柴田
茂夫選手、86歳6カ月で5度
目の優勝)

目

平成28年6月9日 8組31名

成績(賞金獲得者)(卒年)

優勝..柴田茂夫(大2)68(32)

準優勝..名口幸夫(大14)69(13)

三位..松浦幸作(大8)71(30)

四位..畠山義生(大10)72(19)

五位..田口良三(大23)73(22)

七位..中西三一(大5)75(24)

十四位..田川行雄(大9)80(9)

二十位..兼松泰男(大18)81(16)

二十四位..木戸 彪(大16)87(34)

BB賞..田村寿夫(大12)93(32)

ベスグロ..名口(大14)82

ドラゴン..北澤・竹森

ドラ短..田村・蔵田

ニアピン..田川・名口・金井・

木戸・小梶・田口

第一〇五回大会(大23回) 中岡

浩三選手初優勝、守谷杯取

切..川崎選手)

平成28年9月6日 7組27名

守谷杯カップ授与

成績(賞金獲得者)(卒年)

優勝..中岡浩三(大23)72(28)

準優勝..川崎憲夫(大17)73(13)

三位..高居健二(大18)73(24)

四位..小野孝史(大19)74(3)

五位..田川行雄(大9)77(9)

七位..柴田吉典(大19)77(12)

十位..平本義則(大23)79(13)

十五位..山本孝之(大9)82(24)



優勝 畠山義生 七段(大10)

準優勝 森本忠徳 五段(大9)

三位 中沢龍彦 七段(大10)

Bグループ

優勝 寺沢 優 二段(大16)

準優勝 河田康雄 四段(大18)

三位 新宮 毅 五段(大2)

●平成二十八年十一月十九日

(土)、全国情報サービ産業

厚生年金基金会館にて開催。

十一名参加

戦績

優勝 三井照次 六段(大10)

準優勝 聖成崇夫 七段(大17)

三位 寺沢 優 二段(大16)

鈴木 克治(大14) 記

平成二十八年

陵水散歩会

●二十八年一月二十六日(火)

「渋谷から浜松町に早春の囁

きを聞く」

コースⅡ渋谷駅～金王八幡宮～

日赤前～聖心女子大前～祥雲寺

～有栖川宮公園～麻布十番～藤

村旧宅跡～東京タワー～芝大明

神～浜松町大門。

小春日和の中、港区の高級住

宅街の起伏を辿って歩く。女子

大の中へはオフリミット。祥雲

寺にはたくさんの墓石に囲まれ

て黒田長政の菩提所。麻布十番

東京陵水会囲碁会便り

平成二十八年囲碁大会の実績を
報告します。

●平成二十八年六月十八日

(土)、全国情報サービ産業

厚生年金基金会館にて開催。

十四名参加

戦績

Aグループ



金乃台カントリークラブ

支配人 足立原 孝文

〒300-1211 茨城県牛久市柏田町3432

TEL 029-872-0182 FAX 029-872-3182

『今年も皆様のご来場をお待ちしております』

の「青い目をしたお人形」の歌
詞にあるきみちゃん像に哀惜の
目を走らせる。参加者九人。

●二月二十三日(火)

「練馬区はどんなところ」

コースⅡ練馬駅～練馬区役所～
正蔵院～正覚院～東福寺～江古
田の森公園～武蔵大学～高稲荷
神社～広徳寺～練馬駅。

練馬区役所二十階からまず練
馬区全体を眺望する。区内一巡
コース。外は小寒いが天気は悪
くない。かつての農村地帯に住
民に信仰された古寺、古社が点
在する。旧制七年制高校の雄、
武蔵大学のキャンパスは緑深く
きれいな小川が流れていた。

参加者八人。

●三月二十九日(火)

「満開の桜を訪ねて」

コースⅡ市ヶ谷駅～外堀公園～
靖国神社～千鳥ヶ淵公園～内堀
通り～憲政記念館～国会議事堂
前～赤坂日枝神社～赤坂氷川神
社～ミッドタウン。

都心の桜は満開には少し間が
あった。それでも結構な人出。
憲政記念館は井伊家の上屋敷
跡。八重桜がすでに散っていた
のが印象的だった。赤坂地帯に
入ったら寒さが忍び寄ってきた
ので、ミッドタウン公園通りの
七分咲きの桜下で花見酒一杯。

甘泉園～早稲田大学～漱石誕生

そして更なる店を探した。参加
者七人。

●四月九日(土)から十日(日)

「信州飯田・飯沼諏訪神社御
柱祭り」

諏訪湖の諏訪神社が天竜川沿
岸に末社を多数従えている。そ
の岸に二百余段の石段を、巨
木の御柱を引き上げ、境内に立
てる。本社に劣らない勇壮活発
な場面あり。七年に一度の祭り
というので一泊して見物に出
かけた。参加者五人。

四月二十六日(火)

「爽やかな海風・横浜散歩」

コースⅡ桜木町駅～紅葉坂～掃
部山公園～みなとみらい山下公
園～港の見える公園～外人墓地
～元町～関帝廟～中華街～揚州
飯店。

横浜は懐かしい洒落た気持ち
にさせてくれる通りがここかし
こ。薫風爽やかな港は太陽が明
るくエキゾチック。掃部山で井
伊直弼の銅像に敬意を表す。こ
の人なくば横浜の開港も速やか
ではなかった。打ち上げの中華
料理店の個室は寮歌で盛り上が
った。参加者八人。

五月三十一日

「漱石の筆を辿って」

コースⅡ高田馬場駅～玄国寺～
甘泉園～早稲田大学～漱石誕生



漱石公園にて

地～漱石公園～宗参寺～多聞院
～新潮社～赤城神社～筑土八幡
神社～神楽坂。

今年、漱石が亡くなって百
年。随筆「硝子戸の中」の記事
を道案内に。漱石公園は漱石山
房の跡地。山房を記念館として
建築中。多聞院は抱月、須磨子
の比翼塚が興味を誘う。新潮社
の一部は漱石夫人鏡子さんの実
家の跡とのこと。神楽坂の裏手
に隠れるように白秋、鏡花の住
い跡。参加者八人。

●七月二十七日(火)

「隅田川と築地・月島」

コースⅡ歌舞伎座～築地小劇場
跡～築地本願寺～波除稲荷～慶
応義塾発祥地～築地教会～永代
橋～越中島公園～東京海洋大学

～相生橋～佃島住吉神社。

明治の文明開化はこの地から
始まった。外人居留地の名残が
ある。築地教会など。佃の渡し
は護岸工事に遮られていた。海
洋大学のキャンパスに置かれて
いた明治天皇御座船「明治丸」
を同校卒業生のガイドで案内し
て貰う。もんじゃ焼きの鉄板を
囲む。参加者四人

●九月二十七日(火)

「町田市は東京？」

コースⅡ小田急鶴川駅～武相荘
～慶性寺～鶴川街道～町田八幡
神社～町田丘陵～町田市立博物
館～薬師池公園～町田駅。
白洲次郎、正子の邸宅として
著名な武相荘。武蔵野の田畑の
中の農家を、文化の薫り高い一
角に作り上げた。残暑が厳しく
汗だくになって、丘を登り谷に
下り、オアシスのような薬師池
公園を散策。バスで町田市に向
かった。参加者五人

●十月二十五日(火)から
二十六日(水)

「歴史と自然の東海道」

コースⅡ二十五日・東海道線興
津駅～清見寺～坐漁荘～水口屋
記念館～さった峠～由比見晴旅
館。二十六日・旅館～浜石岳～
広重美術館～由比宿場街～由比
駅。

恒例の年一度の一泊散歩会。
清見寺の五百羅漢にご挨拶。西
園寺公望の再建された別邸でガ
イド氏の丁寧な説明を聞く。水
口屋はかつての老舗旅館。近代
史上著名人の書画が残る。小ぶ
りの雨をしのいで登ったさった
峠。海道一の絶景が見られない
のが残念。よく歩いて到着した
宿の桜エビ尽くしの料理が美味
しい。

翌日、青天井が高い。浜石岳
頂上には富士をはじめ三百六十
度の大パノラマが待機してくれ
ていた。往復のタクシーは広重
美術館で止まり、珍しい縦書き
の五十三次を楽しむ。由比正雪
の生家といわれる紺屋を覗き、
桜エビの全体の七割を扱う由比
市場を覗いてから駅へ。
参加者五人。



浜石岳頂上

●十一月二十九日(火)

「馬込の文人村を訪ねる」

コースⅡ大森駅～弁天池～有
三・朔太郎・康成・洋次郎の旧
宅跡～川端竜子館と旧宅～犀
星・周五郎・白秋旧宅跡～尾崎
士郎記念館～大森駅。

寒いからと集合時間を十二時
半。

起伏の多い文人村。これほど
多くの詩人・小説家・文筆家が
寄り集まって住んだ謎を解こう
と歩きながらの自問自答。竜子
の旧宅は折からの紅葉がアトリ
エを飾っていた。奔放な物語を
残した士郎記念館。清楚で住人
の印象から遠い。大森駅前で寒
さを癒す。参加者九人

★散歩会はいつでも、どなたで
も参加をお待ちします。「東京
陵水」林史欣まで。連絡先は当
紙奥付ご参照ください。

林 史欣(大8) 記

詩吟の会

新陵教場 二十三名の大所帯

昨年の「東京陵水」一〇三号
で紹介いたしました詩吟の会・
新陵教場は、大卒七回の鈴木重
成氏が会長の千代田岳精会(会
員三百名超)に所属し、一昨年
十三名であった会員が二十二名
にまで増えました。一昨年末、

本科二十一回の井口博民氏が入
会され、ますます会員の幅が広
くなってきました。

また、会の発展に連れ、陵水
会の会員以外では非に入会した
いという方が現れ、陵水会会員
以外の方にも門戸を開きまし
た。今年度、その新たな会員が
加わり、現在、二十三名の大所
帯になっております。陵水会員
以外でも大歓迎ですから、お知
り合いで詩吟をやってみたい、
もう一度吟じてみたいという方
がいらつしやったら下記のメン
バーの誰かにお伝えください。
なお、近年の趣味の集いは女性
の活躍が顕著ですが、当教場も
女性が加入されますことは、新
たな発展の糸口になるものと期
待しております。

詩吟を学ぶことはもとより、
教習後の昼食を兼ねての懇親会
は会員のインテリジェンスほと
ばしる賑やかなひと時を過ごし
ています。それと、この教場は、
小椋新理事長はじめ竹森新支部
長、和田新幹事長もメンバーで、
陵水会の新しいニュースもどん
どん吸収できる特典があります。
先号で紹介しました会員も含
め、全員は以下の通りです。

井口博民(本21)、鈴木重成(大
卒七回、本21)、(卒回順敬称略)
成二十八年一月二十五日、神楽
坂「パラドール・ドウ・カグラ」

7)、浦谷政夫(大7)、西野宏
(大7)、田川行雄(大9)、西
坂徹雄(大9)、藤江忠正(大9)、
中川寿一(大10)、堀内和(大12)、
宮野幸雄(大12)、小林三郎(大
13)、加藤博善(大14)、柴田豊
彦(大16)、木戸彪(大16)、滋
野輝彦(大17)、小椋清司(大18)、
西川清悟(大18)、和田博之(大
19)、竹森二郎(大19)、青木美
憲(大20)、脇坂守(大21)、能
島伸夫(大22)、岩崎博之(大
27)

練習は、月三回、第一、第二、
第四木曜日の十時四十分から二
時間、交通至便の新宿駅西口前
の明治安田生命館で行なってお
ります。
入会ご希望の方は右記の会員
または浦谷(ZAT16132@nifty.
com) 〇四九一二六一五五〇
八)までお申し出下さい。
なお、ネットで「岳精流日本
吟院」を検索下さい。流統の概
要がご覧いただけます。
浦谷 政夫(大7) 記

東京陵水会計人会

新年会開催

東京陵水会計人会新年会を平
成二十八年一月二十五日、神楽
坂「パラドール・ドウ・カグラ」



東京陵水会計人会

にて開催しました。
今年の新年会は初参加の一名
を加え十一名が集まりました。
参加者は星出潔(大13)岡田憲
治(大18)稲野辺敬義(大19)
長井和夫(大22)御旅屋尚文(大
24)上田信子(大29)久野康成
(大37)北尾聡子(大45)木村
繁(大46)笠浪真(大48)稲葉
隆博(大45)の皆様です。高木
早苗(本24)深田睦子(大26)
松沢進(大38)の皆様は、残念
ながら都合により参加できませ
んでした。

世界を駆け巡る久野さんから
二月二日発行予定の新著「新興
国ビジネス業界地図」を東京陵
水会計人会に贈呈していただ
きました。公認会計士事務所長、
税理士事務所長、社外監査役、

滋賀大学 陵水新聞会OB会

「滋大陵水新聞会」は毎年彦
根と東京とで交互にOB会を開
催している。今年は東京開催で
ある。平成二十八年十一月十二
日、正午から品川プリンスホテ
ル・カレーショップ「シエール」
で開かれた。設営はその年度の
現役の会員が担当。当日は四回
生三人、三回生一人、一回生三
人の現役諸君とOB十四人の合
計二十一名のにぎやかさだつ
た。卒業以来毎回出席の門野久
義氏(大8・元滋賀銀行)の顔
もあった。現役諸君と交換する
のはOB諸氏には若さと緊張が
貰えるいい機会である。母校の
現状、彦根の学生生活、先輩の
思い出など話題は尽きない。卒
業生の増加とともに、就職先も
多様になっている現状も話され
た。近年、京都新聞に「滋賀大
学陵水新聞会」としてページの

団体監事、経営再建コンサルタ
ント協同組合理事長、監査法人
所属公認会計士等の皆様から近
況報告とともに貴重な話が聞
け、今年も有意義で楽しくおい
しい充実した新年会でした。
岡田 憲治(大18) 記

一角をPR用として占有できることになった。来年は彦根で開催される。

当日出席のOB諸氏は次の通り。

鈴木重成・浦谷政夫・門野久義・林史欣・田川行雄・吉田勇夫・伊藤喜則・峯野佳久・岡村和哉・脇昌之・梅田祐貴子・川上真司・篠島史子。

林史欣(大8)記

第五十五回有田会を開催

平成二十八年十一月五日彦根市松原町の「かんぼの宿」に泊して第五十五回の有田会を開催しました。第六回卒業の市村仁幹理事長を始め二十二名が参加しました。

大学祭

この日は大学祭が行われているということで滋賀大学に集合し「今様の学生気質」もつぶさに拝見することができました。時代のせいがあるいは女子学生が多いせいも、昔の大学祭の感覚ではとても考えられないほど「明るくかつ軽い雰囲気」に隔世の感を禁じ得ませんでした。昔のような立て看板などは一つも見当たらず、会場になっているグラウンドの一角にテント張り

の滋賀県警のコーナーが設けられていました。ここではパトカー・制服(試着も可)・階級章・手錠・警棒などが展示されており、学生を対象にして制服の若い警察官がこやかに警察へのインターンシップの誘いをしていたのには心底驚きました。

研究発表会

有田会では毎回会員の研究成果を発表する習わしがあります。今回は第十二回卒業の津田隆氏の「東海道線はなぜ名古屋から三重県を通らずに彦根を通ったか」と題する講演が行われました。明治二十二年に新橋(神戸間が開通した時に一日一往復あった直通列車の所要時間が二十時間だったこと、戦前東京発シベリア鉄道經由モスクワ行きの便があり切符が残っていること、などを学び、みないっぱしの「てっちゃん」になりました。演題に関する答えは「当時の技術では木曾三川(木曾川・長良川・揖斐川)を渡る鉄橋を掛けることができなかったから」ではないかとのことでした。夜の懇親会では近況報告に続いて学生時代のこと人生のこと病気のこと社会のことなど話が深夜に及びました。

翌日は国の重要文化的景観第

一号に選ばれた「近江八幡の水郷」を手こぎ舟で巡り、葦が風にゆれヨシキリが啼く湖国の秋を楽しみました。

次回有田会は平成二十九年十月二十八・二十九日の両日愛知県岡崎市で開催することを決定いたしました。東京陵水会に所属する有田ゼミOBのみなさまは是非ご参加下さい。

近藤達也(大13)記

東京五陵会

(大5・昭和三十三年三月卒)

上高地散策と白骨温泉一泊

今回で十五回目となる首都圏五陵会の一泊懇親会(春は毎年五月の第四金曜日に東京駅近くのレストラン)は十月六、七日の二日間、信州の山深い奥に歴史ある温泉地として栄えている白骨温泉に一泊して、上高地を散策する旅にした。

新宿駅発十時の中央線特急「スーパーあずさ」で松本へ。松本駅からは私鉄に乗り換えて新島々駅へ。沿線は黄金色に染まり、頭を深く垂れた稲穂が広がる、のどかな田園風景を眺めながらの三十分の乗車となる。新島々駅からはさらにバスが曲

がりくねった坂道を約六十分、上高地

白骨温泉バス停に到着した。両側の山腹の広葉樹林の紅葉を楽しみにしていたが、温暖化の影響で漸くかすかに色付き始めた程度であったのは残念だった。

斎藤本館

宿(湯元斎藤別館)に手荷物置きと、早速斎藤本館(予約を置くと、早速斎藤本館(予約時満室で取れなかった)の温泉に借り湯することにして浴衣に着替え下駄を履いて出かけた。本館の浴槽は建物の上階にあつて、まずエレベーターで四階まで昇り、山肌に作られた露天風呂に森林浴をしながらの入浴で気分爽快である。乳白色の炭酸水素泉の入湯口にはコップが置かれ、胃腸病に効能ありとあつたので、皆で夕食前一杯となる。四階からさらに上の六階へ別のエレベーターで上がると温泉大浴場。ここでまたどつしりと湯につかった。

夕食後は賑やかな勝手放談会となるが、年齢ゆえか例年より少し早めの散会となった。

翌七日は快晴。高原(一三五〇米)の朝は肌寒いが、緑に覆われた高い尾根筋がまず光を受け、次第に広い範囲が朝日に染まっていく風景は非日常的な眺めで高原の朝を満喫した。



河童橋の東京五陵会

上高地からは最終目的地の松本城に向かったが、タクシーは途中国道を外れて農園道路を走ってくれた。沿道は両側一杯に赤く色づいたリンゴ畑が続いて秋の信州ならではの風景だった。松本城（一五〇四年の築城で彦根城など国宝五城の一つ）では入城は省略、堀の周辺から城を眺めて帰路に就いた。

今年の参加者は、岡田、市木、中川、中西、樋上、久木、龍口の七名で寂しかったが、一泊二日の気楽な旅は来年も続けることになっている。

喜水会の開催

喜水会（大七回卒同期会）の平成二十八年総会（隔年開催）が、去る平成二十八年十月六日（木）、午後一時から彦根キャッスルリゾート&スパにて開催された。地域交替担当で運営されておられ、今年も名古屋地区の幹事担当で運営。今回はいろいろな事情が重なったためか、出席者の数もやや寂しく、二十四名にとどまり、関東地区からは一名であった。

会是小島隆司会長の挨拶のあと、物故会員への黙祷を行った。「乾杯」の一声から始まった宴

会は一挙に盛り上がり、往時の思い出話に花が咲き、悪行の暴露や嬉しかった話の披露など尽きぬ一時であった。自作の水彩画の絵葉書を持参して廻る者あり、「謡い」やら詩吟やらの「のど自慢」は会の雰囲気を一挙に盛り上げた。

会の締めくくりは恒例の「学歌」「寮歌」「逍遙歌」「琵琶湖哀歌」等々等々の大合唱。若きエネルギーが蘇った感ありだった。二年後の彦根での再開を約して、午後三時閉会となった。

関東からの出席者・鈴木重成 鈴木 重成（大7）記



喜水会同期会

彦根コンフィデンスンシヤル

—滋大陵水新聞会

●新学部、来年度開講（二〇一六年六月三十日付（三四〇号））

来年度より、滋賀大学にデータサイエンス学部が設置予定である。日本には統計学部や統計学科というものがかねてから存在しておらず、統計学に特化した学部・学科はこのDATAサイエンス学部が初となる

学部の規模としては、経済学部より九十名、教育学部より十名削減し、百名を募集する予定。またデータサイエンス学部の設置により、平成二十九年度から情報管理学科は廃止となる。経済学部とデータサイエンス学部の相互履修については、「学部間連携専攻プログラム」により可能である。

●ゼミナール協議会主催イベント「四年間、どう使う？」開催
去る二〇一六年七月十三日、主に滋賀大学の一・二回生を対象にしたゼミナール協議会主催イベント「四年間、どう使う？」少し先を行く先輩から学ぶ「が開催された。

このイベントは「大学の勉強

とはどういったものなのか」ということを目的としたパネルディスカッションであり、パネラーとして本大学三・四年生四名とコーデイネーター一名の計五名が登壇、「大学での勉強の面白さ」「部活と学業の両立をどうするか」「テストに向けて何をしたらよいか」など大学生活全般のさまざまなテーマについて話がなされた。

このイベントを企画したゼミナール協議会代表の飯田啓統さんは、「滋賀大生の学びを盛り上げたい」という思いから開催したと話す。パネルディスカッションには交流会も行われ、参加者は和やかな雰囲気談笑を楽しんでいた。

●データサイエンスシンポジウム開催（二〇一六年八月一日付（三四一号））
七月二十三日、大阪国際会議場において、「データサイエンスシンポジウム〜データサイエンスとはなんだろうか〜」が開催された。「データサイエンス学部」の設置に先立ち、データ

サイエンスとは何か、本学データサイエンス学部では何を学ぶのかについて講演とパネルディスカッションが行われた。参加者は民間企業関係者及び本学教員や学生、受験予定者など百名以上に上った

シンポジウムの冒頭に位田隆一学長、および情報・システム研究機構の北川源四郎機構長による挨拶がなされた。位田学長は「統計科学を専門とする人材が日本には少ない。データサイエンス学部でデータエンジニアリングとデータアナリシスの両方の知識を身に着けたデータサイエニティストは今後とても重要視される」と話す。

講演では統計数理研究所の樋口知之所長及び本学データサイエンス教育研究センターの竹村彰通センター長の二名により、学内外におけるデータサイエンスの現状や必要性、将来性についての講演が行われた。竹村センター長は「データサイエンス学部が設置されることにより、人文社会系大学から文理融合型大学への大転換を行う。経済学部学生のビジネススクール型教育を強化する予定だ」と話した。（滋大陵水新聞・城出 優哉）

平成二十八年年度年会費納入者

(平成二十八年十一月末現在)

- 山口武美(本17)、小笠原滋 高木克幸(本19)、葛上宗一郎(本20)、井口博民 犬塚昌一 鈴木登喜雄 竹内政太郎 豊田弘毅 中辻喜蔵 (本21)、橋本 侃 箕浦 正 山口昭夫(本22)、西尾 實 前川彌之 祐 松本 義(本23)、岡田 浩 加納淳司 相馬忠男 高木早苗 西澤 正 保正 保 矢田佳三 山本 羊之介(本24)、井上泰一(東4)、川本 茂 前田偉量(大1)、乾 哲彦 岡田 巖 柴田茂夫 新宮 毅 水引芳雄(大2)、清水善和 中川弥次 増田茂樹(大3)、今井 常清 粕淵健三 佐々次郎 酒井郁 郎 竹内鏡二 樋上不二子 箸方海 三 松岡正曜 安江都夫(大4)、飯島 勲 井上明郎 岡田和義 神 谷 亨 龍口秀夫 中川郁三 樋上 泰功 中西三一 三井正勝(大5)、青木 滋 今宿隆弘 白井 靖 大 久保義雄 大谷毅丈夫 岡田 亨 河合正紀 川村和男 草生知治 小 林仁実 斎藤高康 高橋秀治 田中 実 中村博一 橋本長夫 林謙治郎 久木義雄 藤原多喜雄 三宅義男 (大6)、磯部一郎 浦谷政夫 佐野 了 鈴木重成 西野 宏 富永義孝 (大7)、池田弘孝 小塩正長 尾本 政二 大島明美 滝川雅一 刀祢館 信雄 並川 淳 西村 信 浜崎守 三 林 史欣 松岡健雄 安田一雄 小森清美 松浦幸作 池田辰彦(大 8)、田川行雄 中川和己 中島勝 司 西坂徹雄 西田広彦 平瀬武明 藤本裕一郎 乗富俊二 吉田 弘 森本忠徳 山本孝之 藤江忠正(大 9)、井上善隆 石垣 康 臼井 健 坪田清六 中沢龍彦 畠山養生 服部全孝 細谷 孝 山田 進 山 本啓司 中川寿一 三井照次 田中 俊男 佐藤秀孝(大10)、池田俊明 川合久嗣 川北直行 黒沢日出男 小林貞夫 関 恵文 野一色公平 法橋正虎 馬瀬 進 松浦紀久雄 松本隆一(大11)、稲邑明也 守谷 貞夫 田村寿夫 平居俊雄 堀内 和 堀川幸夫 山口和俊 宮野幸雄 (大12)、朝比奈冬雄 小谷兼夫 小 林三郎 近藤達也 西藤和弘 中村 奎吾 納堂秀樹 星出 潔 吉田久 典 若山 忠(大13)、天木國夫 石田昭郎 山口 晃 加藤博善 北 村徹 古山捷二郎 土井健一郎 中 浩司(大14)、穂山祥夫 海老 洋 奥村勇雄 木下英男 黒田悦司 鈴 木 勝 柘野茂樹 富田博司 藤井 駿治 細江護夫 山本 保 吉田勇 夫 中沢武昭 前田哲顯 鶴見芳令 寺田芳雄(大15)、木津勝治 木戸 彪 柴田豊彦 浜口栄治 嶋多 優 渡辺雅利(大16)、池ヶ谷吉人 岡 本和之 川崎憲夫 栗林 昭 滋野 輝彦 柴原良昭 柘 治三 中根昌 孝 並河日出男 西尾郁夫 蔵田昭 憲 山本節夫 中川瓊一(大17)、 市岡隆治 影山哲也 北居和夫 小 梶清司 田中和夫 徳山秀雄 中村 嘉秀 西川清悟 村瀬尚文 小倉好 嘉 栗原喜代次 岡田憲治 兼松泰 男 吉村政彦 今津松男 喜田峯幸 千葉 茂(大18)、奥野六友 柴田 吉典 中村達夫 永田 修 平田雅 章 山崎竹夫 和田博之 伊藤博邦 小野孝史 門平孝二郎 小山久照 芝田隆行 竹森二郎 田辺 徹 寺 井与利雄 土井利明 濱 筆治 松 野澄男 水田伸寛 宮川 誠 吉延 秀明 村上 等 西澤弘行 坂野友 之 岡 廣司(大19)、青木美憲 大八木勉 田中二郎 竹本進一角 田健一 農守義文 持田春夫 岩谷 克敏 上田 求 植田兼司 浜野信 宏 平井善三 堀尾重雄 宮武 修 裕 河原正喜 蔵 彰 高山芳明(大 20)、森口修逸 飯田 潔 上田文 雄 大橋信人 山下勝司 吉川光洋 吉田富美男 米山 修 脇阪 守 藤野義男 石川公一 山口勝三 植 野克美(大21)、長尾成基 能島伸 夫 山田 忠 小林 忠 玉村利廣 長井和夫 山代真佐行 山脇一泰 西山正志 北野敏彦(大22)、稲波 信一 品川悦夫 田口良三 西以久 夫 深谷靖純 青木市次郎 大矢武 史 近藤 修 野村勝良 平本義則 堀内 裕 中岡浩三 岸上和夫 堀 江慎一 棚橋 稔 玉置辰司 松田 治久 公文信太郎 若林 寛 玉井 達也(大23)、一円正之 田中恒男 徳山 均 濱保晃夫 湧川勝巳 仙 田修三 齊藤裕士 松永美弘 奥村 淳一 本田吉弘 河江泰平(大24)、 石黒俊一郎 田村弘昭 山本哲治 楠田芳弘 安井喜重 香山 隆 中 尾佳史 岡本幸博 中村 勝(大 25)、池本莊司 長 誠次 高瀬 豊 近森彦義 重田 博 高見政史 京極政好 上林好一 田中照己 堀 井 仁(大26)、岩崎博之 木戸博 文 足立浩次 小松利史 土田秀仁 川 寄信二 神田憲樹 杉本利彦 小 川 彰 大村義朗 柏木 勝 溝口 信悟 橋本直志 稲生教之 増田義 人(大27)、大野光宏 木元誠剛 後藤世和 篠田 亨 日野正教 池 下雅之 中野克廣 西川元啓 服部 修 馬場敬夫 吉永純明 岡野茂樹 小杉祐司 宮崎吉史 奥田慶一 岡 本勝彦 岩間修司 竹内敬二 堀田 恭史 行舎 修 中森基雄 田中幸 広 桑島英彰(大28)、浅見 徹 吉本準一 坂根 徹 中野達也 飯 塚浩彦 牧野 武 緒方俊輔 増田 憲彦 古田悟朗 中鹿 哲 川北武 宏 鈴木教義 酒井嘉登 片山妙子

●寄付金提供者(卒年次略)

- 前田偉量 今井常清 乗富俊二 河 北直行 山口和俊 吉田勇夫 小林 忠 大矢武史 木戸博文 木元誠剛 池下雅之 中野克廣 吉永純明 中 野達也 島田大輔 志賀康仁 大原 孝明 北川昌樹 清水俊彦 北澤勝 太郎

編集室 所感室

イギリスのEUからの離脱、アメリカ次期大統領にトランプ氏が当選と、思いがけない事件が続いて起きた。世界は見えないところから大きく変わりつつあることを知らされる。時代の変転は新旧の軋轢を伴い、世界が荒廃するのではないかと不安を呼ぶ。

母校は新年度から新学部が発足する。このような揺れ動く世界の中で確実な誕生が待たれている。世界が変革の兆しを見せているとき、データサイエンス学部が、新しい現代的事象を対象に学問を展開していくことは非常に意味のあることだと思ふ。最近の佐和前学長の著書では、人間社会は複雑系の絡み合った社会であり、経済現象の分析を越えた人文知を学ばなければ「経済学」を学んだことにはならない趣旨を述べておられる。(H)



ITシステム性能管理のエキスパート

株式会社 アイ・アイ・エム



性能管理ソフトウェア「ES/1 NEOシリーズ」と専門SEの手厚いサポートにより
「システムの安定運用」と「コスト削減」のお手伝いをいたします

代表取締役社長	小野 孝史(大19回)
営業本部東日本営業部 次長	森山 哲田(短41回)
営業本部東日本営業部 マネージャ	田村 峰子(大51回)
営業本部東日本営業部 マネージャ	中村 早織(大58回)
営業本部西日本営業部	樽井 彩花(大61回)



特長

1. IoT時代に魁た製品ラインナップ
2. 豊富な導入実績
3. 創立から29年、競合製品なし

性能管理の理想をカタチに、
理想を実現する会社

URL <http://www.iim.co.jp>

本社	〒113-0033 東京都文京区本郷2-27-20 本郷センタービル	TEL:03-5684-6771(代)	FAX:03-5684-6845
大阪支店	〒531-0072 大阪市北区豊崎3-2-1 淀川5番館	TEL:06-6359-5750(代)	FAX:06-6359-5751
中部営業所	〒460-0008 名古屋市中区栄2-2-17 名古屋情報センタービル	TEL:052-220-2977(代)	FAX:052-220-2978

駐車場の総合コンサルティング

日本駐車場開発株式会社

(東証一部上場 証券コード2353)

東京都千代田区丸の内1丁目5番1号 新丸ノ内ビルディング

〒100-6510 電話 03-3218-1900

取締役副社長 川村 憲司 (大37回)

α+ ALPHA PLUS CO., LTD.

代表取締役 岡本 幸博 (大25回)

株式会社 アルファプラス

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-37-8 白鳥ハイツ206号

TEL (03) 5474-0593 FAX (03) 5474-0594

携帯電話 090-3220-0595 E-mail: okamoto@alpha-plus.co.jp

発行所
〒236-0004 横浜市金沢区福浦1-14-9
守谷輸送機工業(株)
陵水会東京支部 支部長 竹森二郎
電話 045(785) 3716
印刷所
〒110-0015 東京都台東区東上野1-28-3
船舶印刷(株)
電話 03(3831) 4181

林 史欣 (大8回)
〒164-0014 中野区南台2-15-10
(TEL・FAXとも) 03(3381) 4431
※編集室のメールアドレスは hysckys@nifty.com
(次号分々切日十月末日)

「会報」原稿・情報ご送付先

陵水会東京支部

ホームページアドレス

<http://m-p-o.co.jp/tokyoryosui/>